

海外夏期セミナー

2009



IN ☆ CANADA

アルバータ州立アルバータ大学

09. 08. 02～09. 09. 06

目次

夏期セミナー参加者	・・・・・・・・・・・・	(4)	
日程表	・・・・・・・・・・・・	(5)	
セミナー先について	・・・・・・・・・・・・	(6)	
お世話になった方々	・・・・・・・・・・・・	(7)	
英語クラス	・・・・・・・・・・・・	(8)	
IT クラス	・・・・・・・・・・・・	(9)	
カンバセーションクラブについて	・・・・・・・・・・・・	(10)	
企業訪問 CTV、NAIT、Corus Radio	・・・・・・・・・・・・	(11)	
AICML、City TV			
イベント Heritage Festival	・・・・・・・・・・・・	(13)	
West Edmonton Mall			
Canadian Rockies Trip			
Faculty Social			
Outdoor Activity			
Fort Edmonton			
Farewell Party			
寮生活	・・・・・・・・・・・・	(20)	
ホームステイ 相澤裕子	「Homestay」	・・・・・・・・・・・・	(21)
石山たまみ	「ホームステイ」		
田中琴奈	「ホームステイ」		
長谷川洋輔	「初めてのホームステイ」		
持ち物リスト	・・・・・・・・・・・・	(25)	
アドバイス	・・・・・・・・・・・・	(26)	
個人留学報告 相澤裕子	「Canada」	・・・・・・・・・・・・	(27)
石山たまみ	「留学報告」		
加藤詩織	「カナダ留学での体験」		
佐藤真亜矢	「留学報告」		
佐藤亮太	「留学をして気付いたことと必要だと感じたもの」		
田中琴奈	「留学報告書」		
富樫愛	「Canada 留学報告」		
長谷川洋輔	「留学報告」		
古川康代	「留学報告」		
間宮拓人	「留学報告」		
横木祐樹	「留学報告書」		
吉原和輝	「留学報告まとめ」		

夏期セミナー参加者

相澤裕子 Yuko Aizawa

石山たまみ Tamami Ishiyama

加藤詩織 Shiori Kato

佐藤真亜矢 Maaya Sato

佐藤亮太 Ryota Bob Sato

田中琴奈 Kotona Tanaka

富樺愛 Ai Togashi

長谷川洋輔 Yosuke Hasegawa

古川康代 Yasuyo Furukawa

間宮拓人 Takuto Mamiya

横木祐樹 Yuki Yokoki

吉原和輝 Kazuki Yoshihara

引率教員

竹並輝之 Teruyuki Takenami

山下功 Isao Yamashita

夏期セミナーの日程

加藤詩織

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
8月2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日
カナダ到着 オリエンテーション	カナダ祝日 Heritage	英語クラス Scavenger Hunt	英語クラス West Edmonton Mall	英語クラス 企業訪問 (CTV)	カナディアンロッキーへ 旅行	
9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日
カナディアン ロッキーへ旅行	英語クラス 企業訪問(NAIT)	英語クラス Conversation	英語クラス Faculty	英語クラス Conversation	英語クラス Conversation	
16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日
ホームステイ開始	英語クラス Conversation	英語クラス 企業訪問	英語クラス 大学研究室訪問	アウトドア アクティビティ	英語クラス Conversation	
	Club	(Corus Radio)		Conversation	Club	
Club				Club		
23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日
	英語クラス ゴルフ体験	英語クラス 企業訪問	英語クラス Conversation	英語クラス Club	英語最終試験	
	Conversation	(City TV)				
	Club					
30日	31日	9月1日	2日	3日	4日	5日
	IT クラス Fort Edmonton	IT クラス	IT クラス	IT クラス	IT クラス	カナダ出国
					Farewell	
	Conversation				Party	
	Club					

セミナー先について

佐藤 亮太

私たちちはカナダに到着すると、リスターセンターという学生寮に通され、そこで2週間程過ごしました。リスターセンターのスペルは LISTRE CENTRE となっており、RE の綴りからイギリス英語が強いのだと感じました。

中にはビリヤードやパソコンがあるコミュニティルーム、売店などがあります。売店は閉店時間が早いので注意が必要でした。行くともう閉まっていることもしばしばあり、そのような時は近くにある 24 時間営業のコンビニで買い物をしました。買い物で多くを占めたのは水とパンです。飲み物の種類が少なく、また牛乳や日本で見かけないようなジュースは驚異的に甘いので水か 100% ジュース、スプライトを買うのが無難です。水はまとめ買いすると安いのでみんなでまとめて買うことが多かったです。買い物の時、トラベラーズチェックは使えないことが多いので現金を持って行ったほうが確実です。また、現金は後々電車の切符を買うのに必要だったので、どうしてもという時以外はカードを使うようにしました。現金は最低 300 カナダドル位必要になりました。

寮にある自販機は温かいものがない上、お金を食うので注意が必要です。前の人人がお金を飲み込まれたからか、たまに二本でできます。日本の自販機のハイテクさが身を持って実感できます。洗濯はコインランドリーです。いかにも外国！という感じで、ワイルドさが感じられます。洋服が切れたりする可能性も考えられたので、私は毎回洗濯ネットに入れて洗っていました。が、中にはネットが切れた人もいました。恐怖です。乾燥機もありますが、空気がとても乾燥しているので部屋のクローゼットに干しておくと半日で完全に乾きます。

ご飯は節約のため、パン、パン、パン・・・とパンのオンパレードになります。たまに巨大ハーゲンダッツなども買ってきたりすると、ささやかな贅沢を感じることができます。

アルバータ大学はとても広いので初めの頃は迷ってばかりいました。そのような時、近くを歩いている人に道を尋ねると快く教えてくれます。カナダの人はとても人柄が良いです。大学内は夏季休暇期間中のためか、あまり人がいませんでした。また、大学内にはハンバーガーやドーナツのお店もあります。ドーナツのお店は TimHortons といい、カナダ発のドーナツチェーンです。町中にもあるのでぜひ食べてみることをお勧めします。ベーグルがとてもおいしいです。大学は飲食店街につながっており、そこでお昼御飯を食べることができます。種類が豊富なので飽きませんでした。

日本と環境が大きく違い、非常に貴重な体験ができたと思います。また機会があれば行きたいと思っています。

お世話になった方々

間宮拓人

マット先生

夏期セミナーの英語クラスを担当していただいたフレンドリーで常に明るく、笑顔が素敵な先生。

ドミニク

夏期セミナーでの指示をわかりやすく伝えてくれたり、カンバセーションクラブなどで手厚く対応していただきました。

マーク

夏期セミナーのITクラスを担当していただきました。丁寧な講義でjavaやHTMLについて教えていただきました。

セバスチャン

空港から大学間などの長距離を移動する際の車での送迎をしていただいたり、何かとサポートしてもらいました。

ヘッダ

カンバセーションクラブで楽しい話題を提供していただき、英会話を盛り上げることができました。

山下先生

夏期セミナーの上半期、慣れない土地での指示やアドバイスをいただきました。

竹並先生

夏期セミナーの下半期、困った時のサポートやアドバイスをしていただきました。

英語クラス

石山たまみ

英語クラスは、先生であるマットと、国情からの留学生のみで行われる少人数の授業です。日本でよくあるネイティブの先生の授業に近い感じのものでした。

一マットとのコミュニケーション

最初の何回か、特に初日はとても辛かったです。マットの発音は日本の授業でよく聞く英語とは若干違っていて、ほとんど聞き取れませんでした。みんな黙ったままのせいか、授業の雰囲気はどこなく怖かったです。しかし初日で撃沈したおかげで、みんな徐々に話すように努力して、何とか意思の疎通ができるようになりました。マットの英語も、慣れれば普通に聞き取れました。それからはジョークもバンバン飛び交うような、楽しいクラスへと変わっていきました。



一授業内容

授業中は基本的に、電子辞書の使用を禁止されます。マット曰く「おかしな訳ばかり」だからだそうです。その代わり、マットお勧めの紙辞書を貸してくれます。ただ1冊だけしかないので、みんなで使うのはちょっと大変でした。

大体は教科書やプリントを使って勉強しますが、読み書きだけではありません。実際に使えるように練習をします。習ったばかりの表現を使って、クラスメイトと短い会話をすることが多かったです。やり方がゲームっぽいので、とても楽しいものでした。

クラスの中だけではなく、外にも出て勉強します。スラングや道順といったカナダの人間に聞かなければ分からぬような問題を出されて「全部解けるまで戻ってくるな」と放り出されたこともあります。最初は怖いですが、カナダは優しい人が多いので何とかなります。また、店などに見学へ行って話を聞くこともあります。内容が建物や歴史に関する説明だったので、聞き取るのは結構難しかったです。



一授業で鍛えた力、身に付いた能力

マットの話を理解しようと必死だったので、リスニング力はぐんと伸びました。それに付随して、伝えようとする力も上がったように思います。流暢に英語を話すところまではいけませんでしたが、コミュニケーションをする上では十分役に立つレベルです。また宿題で何度も英作文（日記）が出たので、書く力も付きました。日本では英語の文章を自力で書くことが少ないので、毎回とても頭を悩ませていました。他にも、自分から知らない人に話しかける積極性や、理解した・していないといった自己主張など、日本ではなかなかできないところが鍛えられました。英語クラスは、私に大きな進歩をもたらしてくれたと感じています。とても良い経験でした。

IT クラス

古川康代

初めに、IT クラスは情報処理演習 Wを受講しておくと、この授業がスムーズに行えます。

この授業は留学最終週に行われました。授業を受け持ってくれるのは、マークという背の高い先生で、英語クラスのマットとはまた違った感じの穏やかな先生でした。

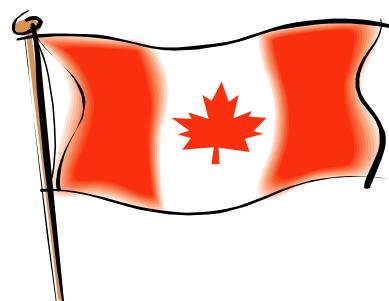
授業内容は、Dream Weaver という Web 作成ソフトを使って HTML と JAVAscript でプログラミングし、自分のイメージしたホームページを作る、といったものでした。

初日に、マークから「自分が作りたいホームページをレイアウトしてみて」と指示を出され、自分のイメージしたホームページをアバウトに紙に書きます。私たちは大きなテーマとして、物を売買するためのホームページを作ることになりました。(ex.音楽 DL サイト等)

そしてそれを HTML と JAVAscript を使いながら、構成していきます。最初に使われる HTML は情報処理演習 F の授業で行われたものが理解できていれば、マークの話していることが完璧にわからなくともついていけていると思います。しかし、段々とホームページを作る上で情報処理演習 F だけの知識ではついていけなくなります。そしてマークはタグを打つのがとても早く、話している内容も難しいものになっていくので、途中で心が折れることもあると思うが、ひとつひとつの作業毎に「何か質問はある?」と尋ねてくれるので、大丈夫です。そして、エラーを出してしまっても、私たちひとりひとりに対して、どうしてエラーが出たか説明して、解決してくれるので、そこも安心してください。

そのような授業を続けて、最後の 2 日間程で、自分の思い描いたホームページを完成させていきます。そして、最後まで完成しなくても自分の出来る範囲のところまで完成していれば提出できます。

最後にこの授業はついていけないと、とても苦痛だと思うので、留学を考えている方は情報処理演習 Wを受講しておくことをおすすめします。そうすることで理解できる内容も多くなるのではないかと思います。



←授業風景

カンバセーションクラブについて

佐藤 亮太

カンバセーションクラブとは、現地の英語インストラクターの方と自由な会話ができるというものです。英語インストラクターの方は全部で3人程いました。中にはカナダで生まれ育った人ではなく、別の国からカナダに移住した人もいました。

この時間は、毎日マット先生の英語の授業で習った成果を出す所としての時間という位置づけで、会話力を養うことができる時間です。私は、この時間をとても充実して過ごすことができました。

私達学生5~6人に一人のインストラクターの方がつきました。会話は一人一人順番にインストラクターの方に質問し、その返答も含めての会話を全員でするというものです。始めは、話したいことが沢山あるはずなのに口から出てこないということがよくありました。しかし、インストラクターの方が様々な質問が書かれたカードを使って会話が途切れないようしてくれたので上手く言葉のキャッチボールができ、つまらないということがありませんでした。1回目は大学の中庭で集まって会話をしたのですが、2回目、3回目になると、段々と慣れてきて大学内の喫茶店で会話をしたりもするようになりました。語学力も上がり、最後にはもうカードも使ってはいませんでした。カードを使わなくとも質問が思いつき、またインストラクターの方の話していることがわかるまでになっていたので自分でも驚きました。また、ある時には町の散策に行ったりもし、行動範囲が広がりました。カンバセーションクラブがなければ行くことはなかったと思います。後日再度その場所に行き、カンバセーションクラブでは見つけられなかった新たな発見もできました。エドモントンの町がどうなっているのか、どこに何があるのかなど詳しく知ることができ、非常に有意義だったと感じています。

始めは質問が思いついても英文にすることができず消極的になってしまっていたのですが、回数を重ねる毎に英語力が上達していくのを感じ、最後には自分からもっと積極的に質問したいと思えるまでになっていました。

会話をしたことで日本とカナダの違いについて知ることができました。カナダを始めとする欧米の人は頻繁に海外旅行に出かけるそうです。メキシコなどの中米や、フィリピンやタイなどアジアへの旅行、また車で2、3日かけてアメリカに旅行に行ったりもしたそうです。日本人があまり海外旅行をしないことを不思議だと言っていました。

カナダは自然が多くあるため、週末になるとよくボートを持って川に出かけるそうです。日本ではそのようなことはできないので、とても羨ましく感じました。そのインストラクターの方だけではなく、多くのカナダの人はアウトドア派だそうです。

カンバセーションクラブにより、日本とカナダの文化の違いや性格の違いについて深く学ぶことができ、とても良い経験ができたと思います。

企業訪問(Company Visit)について

加藤詩織

企業訪問にはカナダ留学中に合計 5 回行ってきました。企業といつても私たちが情報系の学校のためか、ラジオ局やテレビ局がほとんどで、卸しや小売を扱っているような一般企業への訪問はありませんでした。ですが、実際に音楽や取材テープを編集したり撮影しているところを見学できることはなかなかないので貴重な経験ができると思います。

今回はそのうちの前半 3 社について書きたいと思います。

最初に企業訪問に伺ったのは CTV というラジオとテレビを運営しているところで、どちらの局にも見学をしてきました。ですが、カナダに来てまだ 1 週間も経っていない時に行ったので、正直あまり話が理解出来ませんでした。しかし実際に編集している様子を見学したりしていたので、言葉が分からなくても結構勉強になると思いました。

↓ CTV のラジオブース



↓ 音楽の編集の説明



2 回目の企業訪問は、NAIT という新潟国際情報大学と同じような情報系の事を教えている学校を見学してきました。私たちは主にテレコミュニケーションについて説明してもらいました。この学校は通信に必要な機器を実際に自分たちで組み立てたりする授業も行っているようでした。

↓ NAIT の研究室を訪問



前半最後に訪問したのは Corus Radio というラジオ局です。

そこでも実際に収録しているところを見せてもらったり、私たちもラジオ局の機器を使って音響の効果を実感したりという体験をしました。また、ここではラジオの DJ から話を聞くことも出来ました。海外の企業を見学するという体験はなかなか出来ないと思います。ぜひこの貴重な体験から様々なことを学んでください。

企業訪問

佐藤真亜矢

Alberta Ingenuity Centre for Machine Learning

4つ目の訪問先はアルバータ大学の研究室でした。Athabasca Hall という洋館風の建物の中にあるのですが、外観の印象とは違って内装は割と近代的。研究室はロボットだらけという感じで、AIBO など小型のものから割と大きなロボットまで様々な形のものが置いてありました。

ここで私たちが見せてもらったのは Man-Machine というロボットの映像です。セグウェイに箱が載ったような形のロボットなのですが、屋外を走り回って坂を転げ落ちたり、物凄い時間かけてゴルフのパターを打ったりしている様子は少し可愛く見えました。学生とのゴルフ対決の映像はアルバータ大学のホームページでも公開されているので、興味があれば探してみると良いかもしれません。この研究室では他にも医学分野の研究を行っていて、画像からガンを見つけるシステム(?)などを紹介してもらいました。が、正直なところ内容はほぼ理解できませんでした。

City TV

最後の企業訪問先 City TV は、Bay の駅の近くにあるテレビ局です。テレビ局の訪問は2回目ですが、ここではお天気キャスターの女性にも話を聞くことができ、天気予報のモニターの操作を教えてもらったりしました。テレビでは地図や天気図を見ながら解説しているように見える天気予報も、実際は何もない緑の壁を使って行っています。体験させてもらった人もいましたが、自分の姿をテレビ画面で確認しつつリモコンで画像を動かして喋って、という作業はかなり難しそうでした。

3ヶ月の留学生活の成果なのか、案内してくれた男性がかなり早口だった割にはよく聞き取れたような気がします。簡単な言葉を選んで話してくれたのかもしれません、それまで企業訪問では何も聞き取れず落ち込むことが多かったので嬉しかったです。

企業訪問では、全体的に「説明を聞いて質問する」ことがかなり難しいです。私たちは事前に質問を用意していましたが、テレビやラジオ局、大学という予想外の訪問先が続いたためにほぼ役に立ちませんでした。きちんとした質問をしようと身構えるより、「これは何ですか?」と目に付いた物の用途などを気軽に聞いてみるのが良いと思います。



AIBO と小型ロボット(AICML)



お天気お姉さん(City TV)

Heritage Festival

横木祐樹

この Heritage Festival というのは、寮から 15 分くらい歩いたところにある広場で行われていました。そこでは、日本の祭りとは違って約 60ヶ国におよぶ様々な国の出し物が出していました。日本の出店と言うよりイベントのブースのようになっていて、そこではその国の料理を食べることができたり、パフォーマンスを見ることができたり、工芸品や民族衣装を買うことができます。やはり、様々な国の出し物がたくさん出ているということもあって、様々な国の人人がいました。

食べ物は、その国の本格的な料理が食べられるということもあって、初めて食べるような料理がたくさんありました。また、日本で食べたことのある料理でも味が違っていたりして、とても驚きました。特に印象深かったのは、ドイツのブースで食べた、焼いたソーセージをマフィンのようなもので挟んだホットドックでした。味つけにはマスタードしか使われていないのでドイツのソーセージの味をそのまま堪能できて、とてもおいしかったです。今度、カナダに留学する人はぜひ食べてみてください。

パフォーマンスは、その国を代表するダンスや音楽などをステージ上で行っていました。見ている観客の人たちも乗りが良くてものすごく盛り上がっていました。また、その国の民族衣装を着ている人たちもいました。特に、メキシコのブースにいた闘牛士とマリアッチのような衣装を着た人たちがとても格好良かったです。話せば一緒に写真を撮ってもらえるので、このフェスティバルに来た記念に撮ってもらうといいでしょう。

この Heritage Festival を通して様々な国の人々や文化に触れることができました。日本においてはこのような体験はできなかったと思います。私は、この Heritage Festival を通して世界の広さを知り、実感することができたと思います。

最後に、これからカナダ留学に行く人へのアドバイスがあります。ここでは食べ物を買う時にチケットで買わなくてはいけませんでした。そのために、チケットを買う必要があります。そのときに、あまり買いすぎないように気をつけましょう。会場内でしか使えないのと、返金はされないのでチケットが余ると勿体無いので。また、チケットを販売する場所が会場内に数か所あります。何も知らないで入口の近くの販売所に行くと長蛇の列に並ばないといけなくなります。しかし、入口から離れた場所の販売所はあまり並んでいないので、そっちに買いに行くと各国のブースを回る時間が増えるのでお勧めします。また、会場では飲み物も売っていますが、これもチケットでの販売となっているので、あらかじめ飲み物を持っていくとチケットを食べ物に回すことができるでお勧めです。そして、なにより 1 番このフェスティバルで重要になったのがマップでした。会場はとても広い上に、人がたくさん来ているので迷子になりやすいです。実際、私と友人も今、自分がどの辺にいるのかわからなくなることがありました。なので、しっかり配られたマップを見て行きたいブースを決めてから行動すると各国のブースをたくさん回ることができますのでお勧めしたいと思います。

West Edmonton Mall

間宮拓人

ウエストエドモントンモールは広大な土地を使った、一日では全て見て回れないほどのとても大きなショッピングモールでした。最初に引率のドミニクに連れて行ってもらったときには、あまりの広さに驚きを隠せませんでした。とりあえず端から端まで歩いてみましたが、バラエティ一豊かな店舗が数え切れないほど並んでおり、見ているだけでも充分楽しめました。特に多かったのが服飾関係の店で、Tシャツやジャケットが割安の価格で販売されていました。

ほかにお土産の専門店やアクセサリーを売っている店も多々ありましたが、中でもチャイナタウンと呼ばれるアジア関係のコーナーではギョーザやキムチなどの食品や日本でも売られているウーロン茶などの飲料も販売されていて、少しだけ日本が懐かしく思えました。

ウエストエドモントンモールではショッピングセンターのほかにスケートリンクや遊園地、映画館、プールなど、アミューズメント施設が充実しており、ショッピング以外にも楽しめる要素がたくさんありました。中央の広場に作られたプールでのアシカショーもウエストエドモントンモールの見所のひとつで、芸をする可愛いアシカが癒してくれます。

私はホームステイ先からバスで通学していたのですが、バスの乗り継ぎ地点がウエストエドモントンモールだったので、しょっちゅうモールに行くことができました。お土産を選んだり、服を買ったり、特に用もないのに行ったり……。帰国した今、特に思い出深い場所となっています。



Canadian Rockies Trip (8月7日～8月9日)

富樫 愛

8月7日(1日目)

AM8:00頃に大学からバスで Banff へ向かいました。

メンバーは、私たち国情と京都女子大学の人、アルバータ大学のインストラクターのドミニクとヘッダーです。

道中が長いので、寝ている人が沢山いたり、誰かと話したりして遊んでいる人がいたりしました。また道中、青空と岩山と緑の木々のコントラストがとても印象的で凄いと感じたので、私はバスの中から写真撮影をしていました。

町並みは綺麗で、まるでどこかのテーマパークの中にいるようでワクワクしました。

Banff Springs Hotel へ着くと、大きい荷物を部屋に置いて、昼食を食べに Bow Valley Grill へ行き、バイキングを食べました。

カナダへ来てからあまり多くは食べてていなかったので、「めいっぱい食べてやるっ！」と思い、皿にたくさん盛り付けました。事前にスケジュールに組み込まれているので、金額を気にしないで食事できて良かったです。でも、食べ過ぎました…。

食後は、建物の歴史について各部屋を回ってたくさん説明してもらいました。

それから Bow Falls へ行きました。天気が良かったせいか、滝の上に虹が架かっていて綺麗でした。

その後 Sulphur Mountain Gondola へ行き、ゴンドラに乗って上へ向かうと、土産屋があり、そこから頂上まではみんなで階段を登って向かいました。登っていく途中、リスや鳥がいたり、頂上でみんなと写真が撮れて良い思い出になりました。

「山は寒くなるから」と聞かされていたのですが、私たちが行ったときは気候が良く、歩いていると暑いくらいでした。みんなあまり厚手のものは持っていないかったので、寒くならなくて助かりました。

そして宿泊先の Banff Centre にチェックインして大きい荷物を部屋に置き、ロビーに集まってから夕食を食べに Athena Pizza へ行きました。日本と比べて大きいピザでした。

8月8日(2日目)

朝はまず Banff Centre でバイキング形式の朝食を食べました。

そして Lake Louise へ行きました。湖とその奥に広がる山と空との景色が綺麗で癒されました。ここではカヌーに乗りました。各々3人1組(または2人1組)でカヌーに乗り、バランスを取りながら進みました。上手くバランスが取れず、回ってしまったり、片方にばかり進んでしまったりもしていましたが、みんな楽しそうでした。

その後、自由時間があったので建物の中を散策しました。印象的なシャンデリアを撮ったり、お店が数店舗あったので回ったりしていました。

そして Chateau Lake Louise でバイキング形式の昼食を食べました。「カナダは食べ物や飲み物が甘すぎる」とこれまでの1週間で感じていたのですが、ここのデザートは甘すぎず美味しいかったです。

その後、Johnston's Canyon へ移動しました。登っていくと、綺麗な川が流れていました。また上方まで行くと滝があり、水しぶきがかかる距離で見ることが出来ました。

そして、みんなが食いついた出来事が！なんと、滝の近くで水に飛び込んで泳いでいる男性がいたのです。とても気持ちよさそうに泳いでいました。



下りた所には土産物屋があるので、入って見ていました。

それから Banff の中心街へ向かいました。行く途中、野生のシカが道路の脇にいたので、みんなバスの中から撮影していました。

中心街で自由時間を過ごした後、駐車場に集合して Wild Bill's へ夕食を食べに向かいました。

バイキング形式で、メインが骨付き肉だったので、食べるのに苦労しました。

その後、フリータイムだったので、私たちはいったんホテルに戻りました。

「ダンスに行きたい人は、PM10 時にロビーに集まって」とドミニクに言われていたので、多少躊躇しながらも数人の国情生がロビーに集まり、ドミニクとヘッダーと共に出掛けました。

最初に入ったパブではみんなで飲み物を飲みながらお互いに質問をし合い、ナイトクラブでは、リズムに乗る感じで踊りました。15\$使ってしまいましたが、日本ではしない体験なので、良い旅の思い出になりました。

8月9日(3日目)

Banff Centre でバイキング形式の朝食後、荷物をまとめてロビーに集まり、チェックアウトしました。

その後、また中心街へ行き買い物をしました。

私は JCB カードを持っていったのですが、アルバータ大学周辺はなかなか使える所がなく困っていました。しかし Banff で JCB カードを使える店を見つけたので、カードでたくさんお土産を買うことが出来ました。

かわいい物、面白い物がたくさんあり、また日本人の方がやっているお店もあったりするので、カナダ留学中にお土産を買うなら Banff が一番適していると思います。

それから駐車場に集合して、杉乃屋で昼食を食べました。

内容は、天ぷら、刺身、冷奴、サラダ、たくあん、ご飯、味噌汁、お茶でした。

正直、ご飯はふつくらしてなくて微妙でした。しかし、お茶や味噌汁が美味しいくて良かったです。そして、Banff から Edmonton へ帰りました。

～Faculty Social～

相澤 裕子

Faculty Social は、アルバータ大学のセミナーに参加する人々の歓迎会です。本校をはじめ、京都女子大学、熊本大学、静岡大学、立教大学など参加するすべての大学が招待されます。また、韓国や中国などの他の大学の生徒も居ました。

会場は結婚式も開かれるような素敵なホテルでした。夜になるとエドモントンの夜景がパノラマのように目の前に広がります。とても綺麗で感動したのを覚えています。

パーティーなので、男性はスーツ、女性はドレスアップします。普段はカジュアルな服装ですが、Faculty Social では全員華やかな装いで、会場が明るかったです。女性はかっちりとしたスーツを着るより、断然ドレスを着たほうが良いと思います。Faculty Social は、ドレスアップをしておしゃれを楽しみましょう！



食事の後は、ダンスパーティーがありました。これが日本の歓迎会とは大きく違います。カナダの人々はダンスが大好きで、とても大胆に、楽しそうに踊ります。照明は暗くなり、カラフルなライトが眩しく、陽気な DJ が会場を盛り上げます。最初は恥じらいがあった私達ですが、だんだんテンションが上がってきて、ぴょんぴょん飛び跳ねて楽しみました。

カナダに来て不安だらけの毎日でしたが、この1日だけで不安が吹っ飛んだように気持ちが軽くなりました。それぐらい楽しいパーティーでした。



食事の場では、静岡大学の生徒さん達と相席をさせていただきました。Faculty Social は、他の大学とお話しできる良い機会なので、友達の輪を広げてみてはどうでしょうか。

料理は、さすがカナダ！とてもユニークな味付けに驚きました。カナダは18歳からお酒が許されているので、少しだけワインを飲んだりして楽しみました。



Outdoor Activity

長谷川 洋輔

リスターから約1時間バスを乗り牧場に行った。この日はバーベキュー、乗馬、カヌーというイベントづくしの1日だった。

まず最初にしたのがカヌーだった。ロッキーのと比べると少し景色が見劣りするが、海のような広い湖、また、自分たち以外いないのでゆっくりとした時間が過ごせた。

次に少し移動をして牧場まで行き、そこで昼食のバーベキューを楽しんだ。

ここで驚いたのがその肉の大きさであった。厚さ何cmもあり大きな肉で、日差しの強い中、大自然でやるバーベキューはこれぞ本場なのかと思うほどであった。

昼食を食べ、この日の最後のイベントである乗馬をした。

乗馬をする場所まではカウボーイのおじさんが馬車を引き連れて連れて行ってくれた。この馬車がとても揺れて、昼食の後だったので少し気持ち悪くなった。

乗馬といったらポニーなど小さな馬であると思うが、行ってびっくり！！大人の馬で、それに乗って山道を時間をかけてまわっていった。

初めはやはりみんな乗れるか心配そうだった。だが、乗ってみたら意外に楽しいものである。

簡単な馬の動かし方を最初にならってから乗馬するのだが、やはりそこは人に慣れている馬なので簡単に言う事を聞いてくれて走ったり、ゆっくり歩いたり、止まったり、自分が馬を乗りこなせているのだと思ってしまうくらいだった。

乗馬は日本でもできることだが、本格的な山道を使って乗馬をするのはカナダならではだと思う。これも日本では経験できないことなので、是非ためしてほしいと思う。

行かなければ一生体験できないようなことが留学ではたくさんあるので、是非チャレンジしてこの経験を味わってほしいと思う。



Fort Edmonton

吉原和輝

Fort Edmonton はカナダの開拓時代の古い町並みを再現した歴史公園で、国土の広いカナダだけあってなかなか広くて大きい所でした。ここにはカナダ留学の後半の週に授業の後、インストラクターのドミニクが一回連れてきてくれました。ただ、来た時はすごく暑い日で、この広いテーマパークを歩きながら見るのは正直しんどかったです。公園の中には昔の電車が通っていて、歩いている途中「あれに乗れたら楽で快適なのに。」と思っていました。ドミニクに先導されテーマパークを歩いていると、ところどころで昔のカナダの家を再現したと思われる家が建てられていました。カナダの歴史的な情緒ももちろん感じましたが、建物と建物の間隔が広く大きくて歩いて回るのが大変なのは今も昔も結構変わってないんだなと感じました。テーマパークの中には説明係の人がいて、僕たちが来た日はそれほど人が来てなかったので丁寧な説明を聞くことができました。英語で。カナダの留学に行って日常会話なら何とかできるようになったのですが、正直長い英語の説明だと理解するのは大変です。僕は説明係の人が当時の時代の格好をしていたので、そちらのほうに注目し、凝っているなあと感心していました。



アメリカの建国の歴史が授業で必ず教えられほとんどの人が知っているのに対し、カナダの歴史は全くと言っていいほど出ないので、正直僕はカナダの歴史についてほとんど知らず行く前にネットでちらっと見たくらいでした。ただ、アメリカと同じように英國系の入植者が大量に移り住んでいるので（フランス系も多いけど）、雰囲気は西部劇で見るようなアメリカと結構似ていました。建てられている家の中も、電化製品はないけど昔の設備が再現されていてよかったです。薬屋や毛皮を扱った当時の店も再現されていました。毛皮店ではキツネやテン、イタチの毛皮など普段見慣れないようなものが見られました。腹が割かれて中身が抜かれているのでちょっとかわいそうな気もしましたが。他にはインディアンのものらしき住居も再現されていました。個人的には、大きい家の中にあった古いマスケット銃を見られたのに感動しました。ただ、触れなかったのが残念でした。公園内では水道がところどころにあって給水ができましたが暑かったので来た道を戻るのは大変だと思っていたのですが、帰りは最初に見た電車に乗って帰れたのでラッキーでした。



Farewell party

吉原和輝

カナダの留学が終わり、最後に別れの会が開かれました。僕たちのほかに、英語を学んでいた留学生や、これまで世話になった英語講師のマットとインストラクターのドミニク、ITクラスの講師のマークなど学校の人たちが集まってなかなかの人数となりました。

食事の際に別れのあいさつがありそれぞれ引率の教師と学生側の代表者がスピーチを行ったのですが、みんな結構流暢に英語をしゃべるのですごいなと思っていました。

スピーチが終わり食事になりました。最初出されたのはサラダだったのですがやたら甘いドレッシングの効果もありすごくまずかったです。カナダのサラダは平均的に美味しいなと思っていたのですが、山下先生から「カナダは紫外線が少ないのであまりいい野菜が取れない」と聞いてなるほどと思いました。ただ、次に出てきた肉料理はとてもおいしかったです。カナダの肉料理は、カナダで採れる肉自体が良質なので平均的にとてもおいしいです。締めにはアイスが出ました。カナダのケーキは甘すぎるものが多いのでマイチですが、アイスは寒い国だからなのか非常に素晴らしいので結構おススメで、出されたものもいい味でした。食後に僕は講師たちの席からワインをくすねたりしていました。個人的には渋い赤ワインより白ワインのほうがおいしかなと感じました。

食事の途中に表彰式がありました。修了証は僕程度の成績でも貰う事が出来たので安心しました。ただ、たぶん成績は一番低いと思うので、もしかして単位がもらえないのではないかとの文を書いているときも戦々恐々としています。成績最優秀者も発表されましたが僕とはもちろん縁がないものでした。表彰式が終わった後も、いろいろほかの留学生や講師たちと話したり、騒いだりして楽しかったです

この会で講師のマットやドミニクたちとはお別れになりました。僕はダメな人間なんで迷惑をたくさん掛けましたが、いろいろ助けてもらい本当に感謝しています。ありがとう。



寮生活

横木祐樹

私たちは最初の2週間、リスターセンターという建物で寮生活を行っていました。リスターセンターでは1つの階を新潟国際情報大学で使っており、1人部屋か2人部屋を割り当てられました。部屋にはベッドや勉強机などの最低限のものが置いてあって、快適に過ごすことができました。トイレとシャワーは一緒になっており、とても驚きました。また、湯船がないので湯船に浸かるのが恋しくなったのには私自身に驚き、日本人の性というものを実感することができました。

ご飯の面では、自分たちで3食分を用意して食べないといけなかつたので大変な思いをしました。寮の近くにはコンビニや飲食店があり、そこで買って食べたりしていました。また、少し離れたところにはスーパーがあるので早めに場所を確認しておくといいと思います。しかし、自炊するためには寮内にキッチンがあってレンジとコンロはあるのですが、ナベがなかつたので現地で調達するか、持つて行く必要があります。私たちは誰も持つてこなかつたということもあり、みんなでスーパーで割り勘で買いました。

ここで、寮生活でのアドバイスがいくつかあります。1つ目は、キッチンには冷蔵庫があるのですが、それを常に確認すること。これを怠つた私たちは、パンにかけるための同じソースが3つも入つているという状況を生んでしまつました。2つ目は、買ったものの管理はしっかりと行うことです。リスターセンター内には他の大学生がいたりします。なので、管理を怠つてはいると盗まれる可能性があります。実際に、私たちもみんなで使つていたナベを盗られてしまいました。しっかりと対策をするといいでしよう。最後に、水やパンといったたくさん量を買わないといけないものは割り勘で買うことをお勧めします。カナダでは1つでもの買うより複数で買ったほうが値段は安いという理由からです。また、メンバー内のチームワークが良くなるというのが最大の理由だからです。

そして、この寮生活の中で1番重要になつくるのは階の真ん中にあるホール的な場所です。ここには、ソファーと椅子と机があり、みんなでご飯を食べたり、勉強するにはとても役に立つ場所でした。また、何もないときにもみんなで話したり、騒いだりするにはうつつけの場所でした。この場所がなかつたらみんなとも仲良くなれなかつたと思うし、宿題なども終わらなかつたと思います。

この寮生活では、おそらく私を含めた他のメンバーも長期間こういった生活を行うことは初めてだったので様々な面で苦労したと思います。その分、問題に直面したときにどのように解決したらいいかを考えること、仲間と協力することを学べたと思います。また、どのように過ごしたら快適に過ごせるかというのを自分で考える力も学ぶことができました。この寮で過ごした2週間は、自分たちの力で生活していくというとても貴重な体験になつたに違ひないと思います。

～Homestay～

相澤 裕子

ホームステイでは、とても楽しい日々を過ごしました。私の family は、ハンサムでとっても優しい Chris、おしゃべりが大好きでいつもにぎやかな Nykie、いたずらっこだけど可愛い4歳の Taya、1歳なのに Big boy な Syaye の、とても楽しそうな4人でした。子供のいる家を希望していたので、対面した時はとても嬉しかったのを覚えています。

寮生活では、気持ちが落ち込んでしまう毎日で泣いてしまうことも少なくありませんでした。しかし、ホームステイが始まってからは毎日がとても楽しくて、笑顔が絶えなかったように思います。そんな日々を過ごさせてくれた family に、とても感謝しています。



子供たちとは、大きな庭でボール遊びをしたり、おままごとをしたり、DVD を一緒に見たり、毎日遊んでいました。私には妹や弟が居ないので、とても新鮮な感覚でした。4歳の Taya はたくさん話しますが、発音が甘いのでよく分からることもありました。日本語の「いただきます」と「おやすみ」をすぐ覚えてしまったことには驚きました。Syaye はボールが大好きで「ボール！ ボール！」しか喋っているのは聞いていません…

ホームステイが始まって1週間後、熊本大学の女の子が1人やってきました。ホームステイでは、他の大学の人と同じ family になることもあります。休日は一緒に遠くへ買い物に行ったり、仲良くできて楽しかったです。今でもメールや手紙をやり取りする関係です。

また、他の家族と合同でバーベキューをしたり、大きな公園へピクニックに行ったり、多くの人達と触れ合いました。本当に楽しかったし、良い経験だったと思います。



最後に、この家の合言葉を紹介します。

ごはんを食べる時、みんなで輪ができるように手をつないで…

「 I love you! 」 です。 幸せな毎日をありがとうございました。大好きです。

ホームステイ

石山たまみ

ホームステイ先がわかるまで、それはもうドッキドキです。場所などの情報さえ直前にならないと来なかつたので、長いこと不安で一杯でした。迷子になる自信はあつたし、何より一人でカナダの家庭にお世話になるのには恐怖感がありました。そんな私の心情が伝わったのか、私は詩織と二人で、学校に一番近い家にホームステイすることになりました。本当に私はラッキーだったと思います。

Pick-up の日、私たちを迎えてくれたのはとても優しそうなマザーでした。迎えが来るまでずっとビクビクしていた私は、人柄の良さそうなマザーを見て心底安心したものです。直後フロントガラスが割れた車に乗っていると知り、若干恐怖を感じましたが。

車に揺られること約5分、すぐに家に辿り着きました。大きくはないけれど、静かでゆったりとした居心地のいい家でした。ファミリーはマザーの他に、とっても早口なお姉さん、大きいのに細身な犬、気まぐれだけど可愛い猫と、少人数でした。それでもマザーもお姉さんも私たちのことをよく気にかけてくれて、ホームステイは充実していました。

このホームステイで一番幸せだったのは、マザー手作りのケーキを食べられたことです。マザーは料理上手で、よくケーキを焼いてくれました。留学前半でカナダの甘いもの事情に心が折れかけていましたが、マザーのケーキは本当に絶品で何個も食べてしまいました。

ケーキを食べながら、よくマザーと話をしました。今日何をしたのか、それはどうだったか、これから何をするのか、宿題のこと、予定のこと、などなど。ホームステイというよりは、本当の家庭での親子の会話みたいなものでした。電子辞書片手に必死に身振り手振りで伝えようとする私と詩織の話を、いつもマザーは辛抱強く聞いてくれていました。

本当に、感謝してもしきれないくらい色々なことをしてもらいました。食事はいつも美味しいものを用意してくれていたし、つらい宿題にも付き合ってくれました。買い物や映画、演劇、マザーの働いているミュージアム、友人宅での食事会など、色々なところにも連れ出してくれました。あんなに怖いと思っていたのに、終わってみれば楽しいことばかりです。もちろんちょっとは辛いこともありましたが、それは詩織と一緒にだったので何とかなりました。

最後のお別れの時、マザーはまたケーキを焼いてくれていました。さよならはとても辛かったです。

最後の最後まで、私たちのことを思ってくれていたマザーに、心からの感謝で一杯です。



ホームステイ

田中 琴奈

個人的には、ホームステイはとても楽しかったです。ホームステイ先の家族は優しくて良い人たちばかりだし、家の場所も学校からそれほど遠くなく、交通の便も良かった方だと思います。ホストファミリーのおかげで本当にたくさんの素敵な経験をさせていただきました。そんなホームステイ生活で気づいたことは…

・通学手段は事前に調べておく！

当然、家の場所によって交通手段は変わつますが、私たちの時はほとんどの人がバスと電車を乗り換えて学校まで来ていました。カナダでは、切符1枚で電車にもバスにも乗れたり、90分以内であれば乗り放題だったりと日本と違う部分がたくさんあるので、電車などの乗り方はよく調べておくといいと思います。

それから、通学・帰宅時間であれば電車は5分おきくらい、バスは15分おきくらいには出でているので、時間を気にしなくていいというのがとても嬉しかったです。新潟では1時間に1本が普通ですからね…

・日本からのお土産は持って行くべき！

ホームステイのお礼もかねて、日本の扇子とか箸といったものをお土産に持って行くと喜ばれると思います。もちろん、自分が持ってきたお土産についてきちんと説明できるようにしておくことも大事です！日本のことだけでなく、自分のことを知ってもらうきっかけにもなると思いました。

・何事も積極的に！

私は、英語力にもコミュニケーション力にも全然自信はありませんでしたが、まずは意志表示かな？と思い、とにかく自分からお手伝いをしたり、宿題を見てくれるようお願いしたりするようにはしました。お手伝いをしたりしてホストファミリーと触れ合う中で、英語だけでなくいろいろなことが学べたし、些細なことではありますが一緒に料理を作ったりすることが大事な思い出になりました。

また、私がホームステイした家には子供が3人いたので、その子たちやその友達と遊ぶ時間となるべくたくさん作るようにしました。まあ、これはただ単に私が遊びたかったという理由が大きいですがね。おかげで宿題が夜中まで終わってないことが多々ありましたが、久しぶりにした本気のかくれんぼやボードゲームは、そんな苦労をしてまでも一緒に遊んだ価値があったかなと思わせてくれました。

思い返すと、やはりつたない英語ではなかなか伝わらない時もありました。しかし、積極的にコミュニケーションをとるように心がけることで得られたものは、自分にとって大きなものだったな、と感じます。

初めてのホームステイ

長谷川 洋輔

初めてのホームステイは、自分にとってとても勉強になったいい体験だったと思う。

自分が3週間お世話になったホームステイ先は40～50歳くらいのホストマザー一人の家庭だった。そこに犬が2匹、猫が1匹飼われていて、よく妹が遊びに来ていた。

初めてのホームステイでカナダの文化や生活スタイルがわからなかつたが、そこは毎年のように日本人を招待するだけあって、やさしく、簡単な英語で説明をしてくれたのでとても助かつた。

ホストマザーはとても明るく、よく話しかけてくれて、充実した生活を送ることができた。

また、食事も日がたつにつれてカナダの料理が食卓に並ぶようになって、最初、味が濃すぎたり、脂っぽかったカナダの料理も慣れてくればおいしく感じるようになったし、ホストマザーが夕飯の支度をするのを毎日手伝っていくにつれて何品かカナダの料理の作り方を覚えることができた。

ホームステイをして、日本の授業のような文法や単語の勉強だけではなく、話す英語の能力がついた。

また、3週間一緒に生活することによりカナダの文化を生で体験できるという貴重な経験もできた充実した3週間であった。



持ち物リスト

古川康代

□…必須 △…必要に応じて *…好みで

□パスポート □クレジットカード(VISA と MASTER が大抵のお店で使える。)
□日本円・カナダドル □航空券 □学生証 □キャリーバック □普段用鞄
□電子辞書 □ドライヤー *ヘアアイロン □デジカメ □折り畳み傘
△ノートパソコン △ミュージックプレーヤー *ゲーム *小説
△携帯電話(海外プランへ変更が必要)
□普段着 □厚手のパーカー・セーター □下着 □靴下 □靴(動き易いもの)
□パジャマ・ジャージ □スリッパ □腕時計 △サングラス △帽子 △メガネ
△コンタクト □フォーマルな服と靴…パーティー用に女性はドレス、男性はスーツ
□常備薬(胃薬、鎮痛剤、酔止め、風邪薬、目薬など) △化粧品 □化粧水・乳液
□くし □リップクリーム □ハンドクリーム □シャンプー □リンス
□ボディソープ □洗顔 □歯ブラシ・歯磨き粉 □ハンカチ(3、4枚程度)
□生理用品 □ポケットティッシュ(必要に応じた数) △箱ティッシュ □爪きり
□バスタオル(1枚程度) □小さいタオル(数枚あると便利)
□インスタントのご飯(数日分) △のど飴 □インスタントスープ、味噌汁(数日分)
□筆記用具 □ノート □ホームステイ先へのお土産

-アドバイス-

○お金…カナダではあまり大きな額のお札は使わない。**50 ドル札から下の額のお札が便利。**

それから**小銭**もあると便利。

○衣服…カナダは寒暖の差が激しいため、厚手のパーカー、セーターなどが一着あると便利。

かといって**真冬並みのものは不要**。さっと羽織れるものがあると更に便利。

普段着は上下合わせて一週間分くらいあれば足りる。カナダで買い足しても良し。女性はレギンスやタイツが便利。パーティー用のドレスは日本人だと、**白・黒系統**のものを着ている人が多かった。髪にコサージュをつけたり、首元にアクセサリーをつけたりしている人も居たが、それは好みで。

ロッキーへ行くときは**動き易いパンツ**などが一着あると良い。

○ホームステイ先へのお土産…折り紙やお箸、扇子などが喜ばれる。

自分の家族の写真や、住んでいる所の写真なども話のきっかけを作ってくれる。

○美容用品等…カナダは乾燥しているため、リップクリーム、ハンドクリームは必須。それから日差しがとても強いため、日焼け止めも必須。

※変圧器はほとんど使うことがない為、持って行かない方が無難。

アドバイス

田中 琴奈

○服装

カナダの気候は、夏といつてもだいぶ涼しいです。日本の春くらいの涼しさですかね？
暑い時だと30度くらいまで気温が上がりますが、乾燥しているのであまり暑さを感じません。
みんなたいてい長袖で過ごしていました。
それと、朝はすごく寒いです。霧とか出ます。パーカーなどちょっと厚手の羽織れるものがあると便利だと思います。

○お金・カード

まず、トラベラーズチェックはいりません。むしろ使えるところが限られているので不便だつたりします。

お金は、ある程度日本でカナダドルに替えて持って行った方がいいと思いますが、足りなくなつても寮の近くに両替できる場所もあるので、あまり心配しなくともいいと思います。

あとカードですが、持っているとすごく便利です。アメリカの空港で買い物をしてもカードなら簡単に支払いができますしね。でも注意すべきは、基本的にどこに行ってもVISAかマスターカードしか使えないことです。JCBもたまーに使えますが、私の経験では、ウエストエドモントンモールの一部でしか使えませんでした。

○寮生活

寮で料理をする場合、鍋をみんなで買うか、日本から持つて行くかした方がいいと思います。鍋があればお湯を沸かすこともできるので、けっこう便利です。ちなみに、カナダの水は意外と普通に飲めますが、無理にはおすすめしません。それと、鍋などの調理器具の盗難には気をつけて下さい。

洗濯は、洗濯機も乾燥機もあります（一回、2\$くらいで使えます）。でも、カナダは乾燥しているので部屋干しでもけっこう乾きますね。

あと寮のシャワーですが、おそらくイライラします。水圧が極端に強いものと弱いものどちらかです。水圧が丁度良いものは、ありません。お好みの方を使って下さい。

それから、パソコンを持っている人は、個人でパソコンを持って行くといいかもしれません。寮にもパソコンはありますが、日本語が打てないので苦労します。それに、寮だけでなくホームステイ先でも使えますしね。

みんなで協力し合えば、まあ、なんとかなると思います。

Canada !

相澤 裕子

私は国際情報大学に入学した時から、カナダ夏期セミナーに参加することを決めていました。海外で英語を学ぶということに興味があり、必ず良い経験になると思っていたからです。

しかし、出発の日が近づくにつれて本当に楽しみだったカナダでの生活が、だんだん不安になっていきました。英語だけの生活もそうですが、何より孤独を感じるのが怖かったです。仲良しの友達が1人も居なかつたので、1人で頑張らなきゃと思うほど寂しくて泣きそうになっていました。でもカナダに行っちゃえば大丈夫！と強く言い聞かせていました。

カナダでは、美しい大自然に感動することが多かったです。空の青、木々の緑、花の鮮やかな色のコントラストが本当に綺麗で、ただ写真を撮っただけでポストカードみたいに写ります。また、アルバータ大学のすぐ近くで野生のリスやうさぎが走り回っていたり、時にはシカも見ました。そんなに田舎な場所では無かつたので、不思議な光景でした。「カナダ=自然」です。



この夏期セミナーには、本校だけでなく京都女子大学、熊本大学、静岡大学、立教大学など多くの学校が参加しています。京都女子大学と熊本大学とは一緒に行動することも多く、仲良くさせてもらいました。特に、京都女子大学の子とは仲良しでした。毎日にぎやかで、本当に楽しくさせてくれました。他県の大学の人と知り合えるというのも、カナダ夏期セミナーの魅力です。ぜひ他の大学の人と交流を深めて、友達の輪を広げてみてください！

英語の授業では、見た目はイケメンでクールなのにジョークが大好きで笑わせてくれるマットが教えてくれました。マットは凄く声が低くて、流れるように話すので英語を理解するのが難しかったです。最初は緊張もあり、みんな静かすぎるくらい静かで、マットは困っていました。

「terrible...」と言わせたくらいです…出だしは最悪でした。みんなでとても落ち込んだのを覚えています。こんな私達でしたが、2回目の授業ではマットの話していることがわかるようになっていました。たった1日で？と思うかもしれません、私自身も不思議な感覚でした。授業を重ねるごとにだんだんと英語が聞き取りやすくなっている、マットのジョークにも笑えるようになりました。

マットの授業は、真面目に課題に取り組む時もあれば全員でラグビーをしたり、学校を探検しに行って出会った人々に話を聞くなど、実にユニークで楽しかったです。宿題は、ほぼ毎日ありました。マットの出す質問や、その日にあったことなどを文章にして提出するというものが多かったです。最初は英語の文章の構成などに苦戦して、書くのにとても時間を要しました。しかし、この宿題のおかげで最後のテストの時には文章をスラスラと書けるようになっていました。自分で成長を感じられて嬉しかったです。





カナダでの1番の思い出は、やはりホストファミリーと過ごした時間です。

ハンサムでとっても優しい Chris、おしゃべりが大好きでいつもにぎやかな Nykie、いたずらっこだけど可愛い4歳の Taya、1歳なのに Big boy な Syaye、そして熊本大学のはるか。寮での生活中は、寂しくて泣いてしまうことも少なくありませんでした。でも、ホームステイが始まつてからは、毎日が楽しくて笑顔が絶えませんでした。私はこの家で過ごすことができ、本当に幸せ者だと思っています。私にとってのカナダ生活が良い思い出になったのは、この家族のおかげだと思います。本当に感謝しています。いつかまた会いに行きます！



この夏期セミナーでは、多くの人にお世話になりました。



Matt：英語の「先生」というより、仲良しの年上のお兄さんみたいな人でした。毎日面白かったです。

Dominic：本当に優しいインストラクター！わかりやすく、ゆっくりと話してくれました。毎日ありがとうございました。彼らとは今も電話をしたり手紙を交換したりしています。

Mark：ITの授業の先生です。短い期間でしたが、優しく教えてくれました。



京都女子大学、熊本大学：一緒に行動することが多かった、この2大学。大学、年齢関係なく仲良くさせてもらいました。



そしてそして…

一緒にカナダ夏期セミナーに参加した **NUIS** メンバー！宿題、発表会など色々なことを協力してやったね。仲良くなれるか不安だったけど、最後はすごく仲良くなれて楽しかったです。先生方ありがとうございました。お疲れ様でした！

留学報告

石山たまみ

私は小学校のころから英語に触れ、ずっとネイティブスピーカーに憧れていきました。授業という形式ではなく、生きた英語を学ぶ場が欲しかったのです。そんな私にとって、カナダ留学の話はとても魅力的なものでした。経済的に余裕はありませんでしたが、奨学金を貯めることで何とか参加を実現することができました。大学入学前から参加するぞと強く思っていたからこそ、計画的に費用を貯めることができたのだと思います。

私はこの留学に行く前、英語力よりも生活の方が心配でした。英語は流暢に話せないけれど、留学生に慣れたネイティブの人とのコミュニケーションならば何とかなるだろうと思っていたからです。それよりも実家暮らしに甘えきった私が、見知らぬ土地で1ヶ月も自力で生きていけるのかの方が不安でした。カナダに着いてから、生活力も英語力もどちらも重要だと思い知られましたが。

まず生活力。心配していたわりに備えが甘く、危うく飢えてしまうところでした。私は比較的好き嫌いがなく、何でも食べます。そのため特別和食が恋しくなることもないだろうと思い、食べ物はお菓子くらいしか持って行きませんでした。これは危険です。到着した日はもてなしがあるからいいのですが、翌朝から自力で食べ物を調達しなくてはいけません。どこに店があるかも分からぬ状態で、手持ちの食料がないのは自殺行為に等しいです。どこで何が手に入るのかがきちんと分かるまでの間くらいの食料は、日本から持っていったほうが良いと思います。

またマイペースな私は、日々みんなに迷惑をかけていました。朝はなかなか起きない、洗濯出すのが遅い、物事を決めるのにグダグダ言う…寮生活は共同生活なので、みんなが心地よく過ごせるように最低限のことはこなせるようになってないといけません。本当にすみませんでした。みなさんが色々と助けてくれたお陰で、留学中無事に生きていたといつても過言ではありません。

そして何よりショックだったのが英語力。もともと低いとは思っていましたが、想像以上に何もできない自分にびっくりしました。まずドミニクの言いたいことは何となくわかつても、それに対して返事ができません。日本でのネイティブの授業は割りと得意だったのでそのノリでいたのですが、やはり授業と本物のコミュニケーションは違います。対象とする話題が広くなるので、必要な単語が出てこなかつたり、何と言えばいいのかさえ思いつかなかつたり、英語よりも発想の段階で問題が生じていました。何とか表情やリアクションで気持ちを伝えようとしたのでコミュニケーションはできましたが、英語はそんなに話せていないかったように思います。

また英語で一番苦痛だったのは、何といっても企業訪問です。説明は早口だったり難しい単語が使われていたりで、ほとんど聞き取ることができませんでした。何を説明されたかさえ分からぬので、質問をしようにも何を聞けばいいのか途方にくれて、毎回悔しい思いをしていました。もちろん後半の企業訪問は少しずつ楽しむことができたのですが、前半がボロボロでした。

日本での英語と、生活の一部としての英語が、これほどまでに大きく異なるとは思っていませんでした。日本語に逃げることもできない英語に囲まれた暮らしは、私に度胸と諦めと若干の英

語力をくれたと思います。

まだ書き足りないくらい苦しいことが山積みだったのですが、それと同じくらい楽しかったことはありました。ロッキーツアーやアクティビティなどです。特に印象に残っているのはカヌーと乗馬です。カヌーは2回したのですが、初回は何度も回転てしまい、岸に辿り着くのに苦労しました。2回目は初回で苦戦した分スムーズでした。乗馬は思っていたのより大きな馬で股関節が痛かったことと、急に馬が走り出して落ちてしまいそうになったことが特に思い出されます。どれもひどい思い出ですが、何をしてどんな状態になっていても、どれも楽しかったとしか思えません。

私はもともとインドア派で、外に出て何かをするということがあまり好きではありませんでした。日本では休日はもっぱら家で過ごします。それなのにカナダにいる間、出かけずにいた日はありませんでした。毎日何かしらイベントや買い物に出かけては精力的に動き回っていたので、自分にとってはすごい進歩だと思います。

特別なイベントでなくても、友人と過ごしたカナダでの時間はどれも楽しく貴重なものでした。ホームステイが始まってからは、毎日数人で50分の道のりを歩いて帰りました。家に着いてからも、詩織とずっと話していました。独りになることはなく、いつもみんなに支えてもらひながらの留学でした。

この留学では、本当に心が折れてばかりでした。自分は思っていた以上に何もできないということが、具体的にはっきりと見えました。でもそれで良かったと思います。自分に何が足りないのか、自分で気付くことができました。カナダ留学は、最初期待していた英語力だけでなく、これから生きていくために必要な多くのものを与えてくれたように感じています。また外国に行くことで、今まで自分が日本でどれだけ恵まれた環境にいたのかがわかりました。生まれ育った日本にいれることが、とてもありがたいことのように思えます。ネイティブスピーカーのように流暢に英語を話すようになれなかったけれど、カナダ留学に参加することができて本当に良かったです。



カナダ留学での体験

加藤詩織

情報システム学科が参加できる唯一の留学プログラムはこのカナダ留学のみで、しかも他の留学期間と比べて短く 5 週間しかありません。ですが、この 5 週間とても一日一日が濃く充実した夏休みを過ごせたと思います。

カナダについて最初の 2 週間は皆でアルバータ大学の寮に入って寮生活をしますが、後半の 3 週間はホームステイをして各自の家から大学に通います。

最初の寮生活では、自分たちで食費や雑費をまかない生活をしなければいけません。一番の問題は食事だと向こうに行ってから思いました。私たちは男子は男子、女子は女子で別れてその中でお金を出し合い生活をしていましたが、最初はどこにスーパーがあるのかも分からないので、大学の近くのコンビニでパンとソースを買って毎回の食事にあてていました。こんなことにならない為にも、出来る限り早めにスーパーの位置を確認しておくべきだと思います。

あと、寮には最低限の家具しかありません。服や身の回りのものはもちろん、ハンガーや洗濯用の洗剤なども持っていくといいでしよう。私は洗濯洗剤は家庭用の大きなものを持っていましたが、寮生活だけではなくホームステイが始まつてからも役に立ってくれました。というのも、カナダの洗剤は日本に比べ強力なものもあるので服が傷む事があります。なので、服を変に傷ませたくなければ家庭用の大きなものを持っていくのがいいでしよう。逆に洗濯ばさみや洗濯物を干すためのロープは必要ありませんでした。寮には乾燥機があり、洗濯をした後はそれで乾かせばよかったですし、ホームステイ先でも乾燥機がありそれで乾かしていました。もし乾燥機が無くても、ハンガーにかけて乾かす事が出来ると思うので、この二つはいらないと思います。

このカナダ留学では、歓迎会と送別会が開かれます。私たちの年はどちらも正装して出席しました。その際男子はスーツ、女子はドレスを着ます。特に女子ですが、ドレス以外を着て出席している人はいませんでした。それに、大学からも女子はドレスアップするように言われます。なのでドレスは必須だと思います。それに歓迎会・送別会共にホテルで行われ、料理もフルコースで出てくるパーティなので、せっかくなのでオシャレして行きましょう。



カナディアンロッキーへの旅行について

カナダ留学では、2泊3日のカナディアンロッキーへの旅行もプログラムされています。大学の寮を朝に出発して5時間掛けてロッキー山脈の麓の町、Banffまで行きました。Banffは観光で有名な町らしく、中心街は観光客で常に賑わっていました。私たちはBanffを拠点に様々な場所を回りました。ロープウェイで山に登ったりルイーズ湖でカヌー体験もしました。夜はインストラクターのドミニクにナイトクラブに連れて行ってもらったりもし、充実した3日間でした。この旅行は留学1週間目あたりに行くのですが、もしカナダのお土産が欲しいのであればこの時にまとめて買ってしまったほうがいいと思います。買い物が出来るところは広さが世界第2位のウエスト・エドモントン・モールなど他にも色々とあるのですが、カナダらしいものを売っているところがなかなか無いのでこの時にまとめて買うことをお勧めします。

↓カヌー体験をしたルイス湖



↓ Banff の町並み



ホームステイについて

留学の後半3週間はホームステイをします。基本的に1人につき一組の家族が割り当てられ、その家から大学に通います。ですが例外として、2人が同じ家族のもとでホームステイをすることもあります。私は友達と一緒に同じ家に割り当てられました。最初は2人の方が英語が上達しないのではと思い、あまり気が進みませんでしたが、いざホームステイが始まるともう一人誰かがいるのは心強く、ホストファミリーと話すときも話が分からぬ所はお互い教えあって会話が出来たので、他の人よりそこまで言葉に不自由しなかったと思います。

ホストファミリーとは、やはり積極的に会話をしようとしてみるといいと思います。英語がそこまで出来ない私でも、一所懸命話すと相手も頑張って理解しようと努めてくれました。それに、言葉はやはり話さなければ上達はしません。あまり英語に自信が無いからといって話さないのはもったいないと思います。話している内にボキャブラリーも増えていきますし、場面慣れてきて次第に言葉が出てくるようになります。せっかくの機会ですから、沢山色んな人と話していくのがいいと思います。

留学報告

佐藤真亜矢

カナダで5週間生活する。私にとって(恐らく家族にとっても)これは一大事でした。海外旅行は勿論、飛行機に乗るのも初めて。授業の都合で、一人暮らしにも関わらず全く実家に帰れない・・・。準備を一人でしなければいけないのは勿論、パスポート一つ申請するにも、市外出身者の私は朱鷺メッセまで行く必要がありました。しかも土日はダメ。保険料の振り込みやカナダドルへの両替をするために銀行に行くとしても、窓口は平日の15時までしか開いていません。これで何度授業をさぼったことか。一通りの苦労は日本でしたような気がします。

8時から12時まで午前中の4時間を使って行われる英語の授業は、正直言ってかなり不安でした。先生のマットにはカナダ到着の日にも会ったのですが、セバスチャンやインストラクターのドミニクと比べると凄く早口。何を言っているかほとんど分からず「この人と4週間・・・」とドキドキしながら眺めていました。とはいえ、ほぼ毎日同じスピードの声を聞き続ければ耳は慣れていきます。企業訪問に行ったときなど、実はマットがもの凄く解りやすい英語で話していたのに気づき驚きました。何故ならスピードに関わらず、大抵の外出先では説明が全く理解できなかったからです。聞き取りはともかく、発音に関してはいつまでたってもダメでした。何度も発音テストもやったのですが、マットの「ok」はいつも半笑い。努力は伝わったと信じています。

最初は長く感じた英語の授業ですが、バリエーションに富んだ授業内容とマットの人柄のせいで苦痛に感じることはませんでした。後半は実地で人にスラングの意味を聞いたり、建物の場所を聞いたりという授業が増え、教室外に出されることが多くなりました。最初はかなり抵抗を感じたものの、声をかけられれば大抵の人が快く応じてくれるので本当に助かりました。マットには授業中よりはむしろ宿題で苦しめられました。数日おきに **Journal** という英作文の宿題が出されるのですが、私は日本語でも文章を作るのが苦手。内容を考えるのに時間がかかるてしまい、寮でもホームステイ先でも、空き時間のほとんどを費やしていました。ホストファミリーにも「勉強し過ぎ」と言われたくらいです。人間寝なくても案外平気なものだな、と何となく感心した覚えがあります。

ITクラスでは先生のマークの見せるプログラムをひたすら打ち込んでいた印象しかありません。特にHTMLは一年次に処理演習Fでやったきり。説明を聞く余裕もありませんでした。JavaScriptの文法がC言語に似ていることもあり、途中から少しありやすくなつたのですが、時間が足りず完成したのはトップページのみでした。デザイン的には満足のいくものが出来たと思います。Webページの作成は、いつか再挑戦したいことの一つです。

寮生活も初体験でした。普段は一人の時間が持てないとイライラしてくる私ですが、意外と留学生活で一番楽しかった経験かもしれません。同室の友人と夜中まで話したり、女子全員で一部屋に集結して宿題をしたり。最後には留学メンバー全員で飲み会もやり、毎日賑やかに過ごしていました。一つ挙げるなら「何故あんなに食費を節約したのか」ということ。寮では自炊のための設備がイマイチだったので外食か出来あいのものを買っていたのですが、それが何となく贅沢に感じたのかもしれません。今考えるとちょっとやり過ぎでした。ホームステイ先によるかもしれませんのが、支出の大半は寮生活とロッキーツアーであることになると思います。クレジットカードよりは現金メインで行こうと思っている人は、その辺りを考えて使ったほうが良いです。私のようにカナダドルを余らせないよう気をつけてください。

そして寮生活の後はいよいよホームステイです。私のホームステイ先は Goonewardene 家。お父さんの Laki さんとお母さんの Rohini さん、犬のスパンキーの3人(?)家族です。彼らはなんとスリランカ人。それまでの2週間でカナダが移民の国だというのは身を持って感じていましたが、これはちょっと予想外でした。とはいっても特に生活に変わったこともなく、食事の面ではむしろ私向きの家庭だったと言えます。カナダの料理は何となく脂っぽくて味が濃い。しかも甘いものはとことん甘く、売っている紅茶には漏れなくシロップが投入済みです。ロッキーの食事はバイキングが多くケーキも沢山あったのですが、甘いものが苦手な私は怖くて手が出せませんでした。一方で Laki さんのお宅では辛い料理中心。スリランカ料理やメキシコ料理、時には辛いミートソーススパゲティーが出たりもしましたが、辛いのは平気なので(白米が不味いのを除けば)毎回美味しく頂きました。また、Laki さん(実はアルバータ大学の教授だった)はワサビや味噌、玄米茶などいろいろ日本の食品を持っていました。15年前に日本を訪れたこともあるそうです。ある時は味噌スープ、ある時は本格味噌汁、ある時はてんぷらポーク(?)と私を気遣つていろいろチャレンジしてくれる優しいお父さんでした。

ホームステイ中は、近所に住む息子さんや娘さんの家族と食事する機会が多くありました。普段から週一回は一緒に食事しているそうで、家族の時間をとても大事にしているのが分かりました。親戚同士が集まる場というのは日本にいても苦手で、私はいつも素気ない対応しかできず本当に申し訳なかったと思っています。「間違ってもいいから喋ってみなさい」と Laki さんにはよく言われました。それでもなかなか積極的になれなかつたことを今すごく後悔しています。

異文化交流という点では多く後悔を残した留学でしたが、この留学をきっかけに新たな友人ができたことは大きな収穫だったと思っています。留学メンバーは勿論、ホームステイでは熊本大学の学生との共同生活も経験しました。一週遅れで到着した彼女は明るく積極的で、とても心強い存在でした。彼女の不在時にかかってきた友人からの電話を、ホストファミリーに通訳したりもしました。新潟と熊本。日本にいる今ではもの凄く離れている気がしますが、カナダではただの「日本人」。カナダに来なければ出会わなかつただろうと思うと、かなり不思議な感じです。こんな気分を味わつたのも貴重な経験だったと思います。

今、カナダでの思い出といつてすぐに浮かぶのは、失敗して情けなかつたこと、迷惑をかけたこと、恥ずかしかつたことが大半です。それでもカナダにいる間、「日本に帰りたい」と思ったことは一度もありませんでした。英語クラスや Conversation Club、企業訪問、IT クラス、ロッキーツアーやゴルフ、乗馬、パーティーなど、留学中は毎日いろいろなイベントに追われていました。とても忙しく個人的に観光したりする暇がなかつたのも確かですが、落ち込む暇もなくてかえつて良かったのかもしれません。留学を経験して、英語力や自分自身に何か成長があつたのか?それは正直よくわかりません。ただ思うのは、「行かずに後悔」しなくて良かったということ。

行ってきて良かったです。本当に充実した夏休みを過ごすことができました。



留学をして気付いたことと必要だと感じたもの

佐藤 亮太

カナダ留学では、日本との違いをとても多く見つけることができました。

例えば、コンセント差し込み口は2つ穴と3つ穴とがあり、両方とも日本のコンセントをさせます。私の持つて行った携帯の充電器は有効電圧がカナダで使用されているものと同じだったので変換プラグや変圧器が要りませんでした。

道路は日本と違い幅が非常に広いのですが、渡ろうとするとほとんどの車は止まってくれます。日本ではまず止まってくれないので、国民性の違いを感じました。また、町にはあちこちにゴミ箱が設置されており、公衆衛生が行き届いていると感じました。

コンビニは日本の3分の1程の数しかありません。ガソリンスタンドと併設している形のものが多いです。ガソリンの価格は1リットル約90円と原油価格が高騰していた当時で考えるとかなり安めです。スーパーもですが、まとめ買いで安くなる販売の仕方をしています。ちなみに多くのお店は5時にはもう閉まります。早すぎます。セブンイレブンは本当に11時に閉まります。でも24時間営業のコンビニもちゃんとあるので何とかなります。

朝は新聞を無料で配っている人が大学前にいます。有料の新聞もありますが、新聞はフリーペーパーとして根付いている印象を受けました。新聞にはパズル面があり、クロスワードや数独が載っています。暇な時に役立ちます。英語ですが。数独はスーパーや本屋などカナダの様々な場所で見かけました。パズルの中では数独が人気のようです。ちなみに数独は英語で「Sudoku」です。そのままです。

気候についてですが、朝と昼でとても気温差があることに驚きました。朝は大体10度前後と寒いですが、昼になると30度前後まで上がります。ホストファミリーによると冬には零下30度位まで下がるそうです。・・・想像できません。体調管理に気を付けることがとても大切だと感じました。また、雨の日が極端に少なかったです。数えるほどしかありませんでした。そのため、毎日空気がとても乾燥しており肌がすぐ乾きます。

食べ物で一番驚いたものが牛乳です。売っているものは低脂肪乳がほとんどです。しかも4リットルパックでしか売っていません。とても多く牛乳を使うようです。味は人工的な甘さがあります。日本の牛乳の美味しさを身を持って知ることができました。

スーパーでの品物の価格についてです。牛肉は1キロで400円、メロンとスイカは日本のものより2回りから3回り位大きいのに値段は1個50円から100円ととても安価です。対して魚類は高めです。パン文化のためか小麦粉が巨大です。日本で売っているお米並みの大きさです。お酒も売っているのですがカナダのビールはとても薄味です。ビールが苦手な私でも飲むことができました。スーパーでは加工食品以外は無課税なのでその分節約ができます。

ファストフード店が多く、その中でもアジア料理店では日本の地名のお店が多くありました。「江戸」「東京」「京都」などです。しかし、店で働いている人は日本人ではなく中国人のようでした。照り焼き定食なるものがほとんどのお店であります。美味しいのですがどう考えても照り焼き味ではありません。どのような味か食べてみることをお勧めします。

私はハンバーガーが大きいと期待していたのですが、日本のものと大差ありません。ただし、飲み物の大きさは全く違います。Mサイズが日本でいうところのLLサイズです。一度Lサイズを

注文してみましたが、全部飲みきることが大変でした。飲み物だけでお腹が膨れます。

電車とバスは同じ切符で乗ることができます。電車の切符をバスの運転手の方に見せるとトランシスファーチケットという乗り換えができるチケットに換えてくれます。90分の時間制なので時間内であればどこまでも行くことができます。様々な人種の方が乗っているので、人種のるっぽであることを実感できます。

住宅街の真ん中に野球場 2 つ分位の大きな空き地もありました。日本の「公園」とはスケールの大きさを感じました。思い切りボールを投げて怒られることもありません。

電機屋では安価なものは韓国製、高価なものは日本製とコーナーが分かれています。韓国製のパソコンはテレビ並みの大画面でありながら 3 万円と、非常に安いものが多かったです。日本製：韓国製：その他 = 3 : 5 : 2 位の比率でした。携帯電話はとてもシンプルなものが多く、韓国製と台湾製が多かったです。電話が主でメールはあまりしないのではないかという印象を受けました。

音楽やビデオなどはファイル共有ソフト（日本でいう Winny など）で手に入れるのが当たり前という人が多いことに驚きました。日本では著作権上の問題で厳しく取り締まられ、あまり良い印象がないからです。ホストファミリーや大学のマット先生、ドミニクさんなどが愛用していました。

カナダの製品は全て英語とフランス語の二ヶ国語表記です。ケベック州等フランス語圏の州があるためです。多少フランス語も学べるかもしれません。

カナダには中華街があちこちにあります。そのため、全て中国語のスーパー等もあります。そこでは韓国の食品や日本の食品も買えます。かなり割高ですが。例えば、味付け海苔のパックが約 1000 円などです。何故か宇多田ヒカルの歌が流れています。また、イタリア街もあり、カナダに居ながらにしてちょっとしたイタリア料理を食べることもできます。

以上のように、カナダには日本と違う点が多くありました。この違いを発見できたことだけでもカナダに留学したこと意味があったと言えると思います。私は今回のカナダ留学において日本とは違う別環境に触れることが出来て、非常に素晴らしい経験をさせてもらったと思っています。



留学報告書

田中 琴奈

私はこの夏期セミナーで、まずカナダに向かう飛行機の中で自分の英語力のなさを思い知りました。もともと自信があったわけではないですが、飛行機の中で「チキンとビーフどちらがいいですか？」という基本的な質問に答えるのでさえ緊張してしまい、こんなことでカナダに行ったらどうなるんだろう…とかなり不安でした。そして思っていた通り、カナダに着いた最初のころは、英語を聞き取ることさえも難しく、その場の雰囲気で何となく答えるということはしょっちゅうでした。

でも、やはり英語ばかりの場所で生活していると少しづつ耳が慣れていく、自分のことながら「いつの間にか聞き取れるようになっていたんだなー。」と少し感心してしまいました。とは言つても、いざ話すとなるとそれは別問題で、聞き取れるようになったぶん自分の思っていることがなかなか英語にできないとすごくもどかしかったです。それでも、聞き取れるようになってきたということは、なんだか素直に「英語を勉強するのが楽しい」という気持ちにさせてくれました。そして、これはカナダに来たからこそ感じられることなんだなー、なんてしみじみ思いました。



そして、何より私に「もっと英語でうまくコミュニケーションがとりたい！」と思わせるきっかけとなったのは、ホームステイでした。カナダでの思い出の大半を占めるくらい、私にとってホームステイは楽しく、有意義なものとなりました。

寮にいる間はみんなと日本語で話すので、英語を使うのは学校に行っている時がほとんど、といった感じでしたがホームステイとなるとそうはいきません。だからホームステイの前は、カナダに来るとき並みに緊張していました。でも私が「もっと英語でしゃべれるようになりたい」と思ったのは、そんなプレッシャーからではなく、ホストファミリーともっと話がしたい、仲良くなりたいという気持ちからでした。

私のホストファミリーは、私が期待していた通り、といった感じで、猫や犬、ハムスターに魚、そして子供が3人もいるとても賑やかな家でした。それにホームステイ先のパパやママも、私や他の留学生の人たちを想って、七面鳥などの豪華なディナーを作ってくれたり、ミュージカルに

連れて行ってくれたりと本当によくしてくれました。おかげでたくさん素敵な思い出をもらった



のですが、その「楽しい」とか「嬉しい」という気持ちがなかなか上手く伝えられていない気がして、それを上手く伝えられるようになりたいと思い努力はしてみました。しかし、3週間という短い時間では結局思ったように英語で話せるようにはなれなくて、とても残念に感じていました。そんな私にママは、週に一度は「英語がわかるようになってきたと思う？」と聞いてきました。その質問に私は毎回「いいえ」と答えていて、最後の週にも「いいえ」と答えた時、ママは「そんなことないよ、私が今言っていることがわかるってことが、十分英語がわかるようになってきた証拠だよ。」というようなことを言ってくれて本当に嬉しかったです。そしてその言葉で改めて、「日本に帰っても英語の勉強をがんばろう！」という気持ちになりました。本当にホストファミリーのみんなには、いろいろな意味で感謝しています。

でも、私はホストファミリーやカナダでお世話になった人たちだけでなく、カナダのたくさんの人の優しさに感激しました。例えば、バスに乗っている時に、ベビーカーで小さな子供を連れたお母さんが乗ってくると、優先席に座っていた人たち全員が、さっとそのお母さんに席を譲る姿など、とても日本では見られる光景ではないのでびっくりしたし、「こういうところを見習わなきゃいけないな。」と考えさせられました。私は、そういった何気ない気遣いができる人たちを見るたびに心が温まり、こんな素敵なお人たちがたくさんいるカナダにまた来られるといいな、と思いました。



Canada 留学報告

富樺 愛

楽しかったこと

ひとつ。Rockies Tour ! 一番土産を買った場所であり、綺麗な風景を見られたり、普段行くことのない Pub やダンスフロアへ行くことができたり、バイキングをたくさん味わえたりと良い事尽くめで、とても楽しかったです！



Lake Louise

ふた一つ。West Edmonton mall ! Canada で計 4 回は行きました。たくさん店があり、普段入らないような店にも友達と入ってみたり、日本の食べ物や飲み物も売られていたり、とにかく内容が充実していて何回行っても楽しかったです！

みつ一つ。寮生活！みんなで協力してお金を出し合って生活したり、夜になっても友達といらるるので、一緒に課題をこなしたり、遊んだり、飲んだりすることができて楽しかったです！

よっ一つ。ホームステイ ! Canada の文化を身近で感じることができ、普段はいないペットの犬、猫や弟・妹ができるというのはとても幸せでした。また、夕食を作ってもらったり、ホストマザーとパイを作ったり、食に関して一気に質が向上しました。良い家庭でホームステイできて楽しかったです！

いつ一つ。パーティ ! Faculty Social は、食後にダンスタイムがあり、行ってみると、盛り上がりしている人が沢山いて、みんな本格的なものではなく、音楽にのって自分なりに踊っているという感じだったので気軽に楽しめました ! Farewell は、こぢんまりとした会場ではありましたが、その分、身内だけという感じがして、ハメをはずせた部分もあり楽しめました ! ウサミミナイス。

むつ一つ。ゴルフ ! Conversation Club の一環で、自分自身は、上手くできなかったのですが、一緒に回った和輝のショットが強烈で、そのおかげでかなり楽しめました !

苦しかったこと

英語課題。英文の内容を考えること自体が難しく、その上、どういう風に英文にするか考るるので、時間が掛かり、とても辛かったです。また、英文の条件がよく分からぬまま書いていたので困りました。

企業訪問。質問を事前に考えたのですが、どんな企業へ訪問するのか分からずに考えていたので、内容も合っていない。結局質問をほとんどできず、尚且つ、英語のリスニングもあまり出来ないという散々な結果になってしまいました。設備や裏側を見られたことは、楽しかったのですが、自分から詳しく話を聞くことができなかつたのがとても残念でした。

IT クラス。やることは、HTML でホームページを作ることなので、情報処理演習 W を受講して覚えておくと良さそうです。それでも、英語で説明している内容を聞き取ろうとするとキツイと感じました。また、自分にオリジナリティがなく、納得がいくホームページができなくて苦労しました。

食生活。現金をあまり持ってきていない上に、近所では JCB カードを使えないので、結果、あまり食にお金をかけることは出来ませんでした。絶食するような事態にはならぬに済んだので、良かったですが、留学といつてもせっかくの旅行なので、余裕を持ってお金を使いたかったなと思いました。

荷物。トランクなどの大きな荷物と手荷物を持って行ったので、日本の時点ですでに辛かつたのですが、自分は、手荷物の鞄も結構大きいものを持っていったので、Canada で普通に授業の日などは教科書、筆記用具、貴重品などを入れているととても重くて、荷物をたくさん詰める分には良いのですが、持って歩くのには適さないと感じました。

寒さ。ちょっと上に羽織るものを持っていったくらいで、コートやセーターのようなものは持っていたいなかったのですが、朝はとても寒く、日中は天候により、暑かったり、寒かったりと差が激しかったので、もう少し厚手の物を持っていても良かったなと思いました。

あると良い物

- ・モバイル PC…日本語でメールの文章が打てる。カメラの写真データを PC に転送できるので、大量に撮っても心配がない。娯楽を手元における。
- ・ハンガー…数個は寮やホームステイ先にあったりするのですが、洗濯物を干したりする際には、多めにあると干しやすいのであると安心だと思います。
- ・ドライヤー…寮にはないので、普段使う人は Canada でも対応するか確認の上、持ってくると良いと重います。
- ・カードと現金…カードは VISA。現金も急遽使う場面や、カードが使えない場合もあるので余裕を持って使えるようにしておくといい。ちなみに電車・バスチケットは券売機で買うので現金必須！

みんなでお金を出し合うことで各々の負担を減らせて良かったと思います。

内容としては、洗濯機は、日替わりでお金を出す人を変え、1 回にできるだけみんな一緒に洗濯物を回す。複数買うほうが得な買い物は、まとめて買って、割り勘する。などです。

少々面倒くさいと感じる人もいるとは思いますが、所持金に不安がある場合や、できるだけ節約したいという意見が他の人と一致すれば、有効な方法だと思います。

留学報告

長谷川 洋輔

初めての留学を経験して様々な人と出会い、日本では出来ないたくさん経験をした。

ここでカナダ留学での出来事を一つひとつ自分の感じたことや思い出、出来事などを紹介していこうと思う。そして留学をしようかどうか迷っている人への参考になればと思う。

カナダでの生活は初めの2週間が寮生活で残りの3週間がホームステイ先での生活だった。

カナダに着いてからまず一番に感じたことは当たり前だが英語も通じず、何がどこにあるかも全くわからないなどの不便さだった。だがそういったことは1週間もすれば慣れていき何も心配する必要はなくなった。

そしてむしろ見知らぬ土地を探検する楽しみになった。

カナダではプライベートで本当にいろいろなところにいった。たとえば地下鉄に乗ってショッピングセンターに行き、1日中服やお土産を買ってたこともあつたし、おいしいハンバーガーショップを探したりもした。とにかくたった1ヶ月のカナダ生活なので、無駄に過ごす日がないようにアクティブに出かけるのを勧める。

次にたくさんの出会いについて話そうと思う。

この留学で自分はたくさんの人と出会い、友達になった。特に仲良くなつたのが英語の先生のMATTとインストラクターのドミニクである。カナダで友達を作りたいのならたとえ英語があまり話せなくても積極的に自分から話しかけることである。彼らは経験が豊富なので文法も気にせず発音もへたくそな自分の英語をなんとか聞き取ってくれて会話をしようとしてくれた。そのおかげもあり2人とは授業のときでもよく話すようになり、またこれが醍醐味だったのだが、個人的にバーやMATTの家に招かれるようになった。やることがあってMATTの家は残念ながら行くことができなかつたが、バーには同じ時期に留学していた京都女子大学の人たちも一緒に行ってとても楽しかつたし良い経験になった。

また、授業だけではなくたくさんの観光スポットにも行った。

まず初めにロッキーに行きカヌーや乗馬をした。ロッキーでしたカヌーの湖はとても広くまた水が、緑色で山に囲まれた今までに見たことがない良い景色だった。

ここは個人的にもう一回行ってみたいと思ったほどいいところだった。

他にも、日本とは比べ物にならない大きいショッピングモールのウエストエドモントンモールなどにも行った。ここではたくさんの店がならんでいるので、日本へのお土産を買うにはベストな場所だと思う。

ホームステイでは食事が少し合わなかつたが、それもまた良い経験でカナダの文化を学べてよかつたと思う。

最初の頃は長旅の疲れやなれない生活ですぐに帰りたいと思ったが、だんだんと楽しいことが増えていき友達も増えていき、充実した生活を送ることができた。

留学に行こうと思っている人はこの大学生活のなかでこの機会しかないし、もしかしたら人生でもうこれからこんな機会はないのかもしれないだから、夏休みがつぶれるのはたしかにつらいがそれでも行く価値は十分にあると思う。

この思い出は自分にとってこれからずっと忘れられない、いい思い出となった。



留学報告

古川 康代

カナダ留学を経験して、様々なことを学ぶことができました。カナダへ着いてからのことでも勿論ですが、まず、私は留学すること自体をとても悩みました。言語についての不安、知らない土地での生活、など考え始めるときりがなく最後の最後まで本当に悩みました。そしてカナダへ着いたとき、「ああ、遂に来ちゃったんだな…」と精神的にマイナスからのスタートを切ったことを覚えています。

始めの一週間くらいは、慣れない土地、慣れない言葉、慣れない人たちに囲まれて緊張のオンパレードでした。

まず、寮生活が始まりました。寮では基本的に身の回りのことを自分たちですることになりました。具体的に言うと買い物、食事、洗濯などです。寮生活を始めたばかりのころは、食料をどこで買えばいいのかも分からず、一番近くにあったコンビニや、寮の売店で出来上がりの調理パンや、食パン、水などをみんなで買って結構ひもじい生活をしていたことを覚えています(笑)そして料理を作るにも、お湯を沸かすにも寮のキッチンには調理器具がなく、少し経ってからようやくみんなで鍋、フライパンを買いました。「もっと早く買えばよかったね」と笑ったことも良い思い出です。段々生活に慣れてくると、外食や、おいしい物探しなどをする余裕が出てくるので、それも楽しいです。洗濯は、寮のフロア内にコインランドリーがあったため、使い時が他の人とかぶらなければ、毎日不便なく洗濯をすることができました。こんな風に書くと大変なことが多いように感じると思うのですが、みんなで話し合いながら、そして協力しながら共同で生活することはとても良い経験となり、なによりすごく楽しかったです。

そして寮生活と同時に始まった英語クラスでは、マットと言うイケメンな先生が授業を担当してくれました。初日はマットの英語を話すスピードの速さ、コミュニケーションの取れなさに、心が折れました。しかし、少しずつ話している内容や伝えたいことが言えたり、聞き取れたりできるようになってきて、三日後くらいには英語の授業がとても楽しいものになりました。それにマットはとても面白い先生で、いつも色々なことを言って私たちを笑わせてくれました。最初は話すスピードが速すぎて少しだけ怖いと感じたけれど、慣れるとお茶目で優しい先生です。そんな素敵なおのがしてくれる英語の授業では聞き取る力が格段に上がったのではないかと思います。

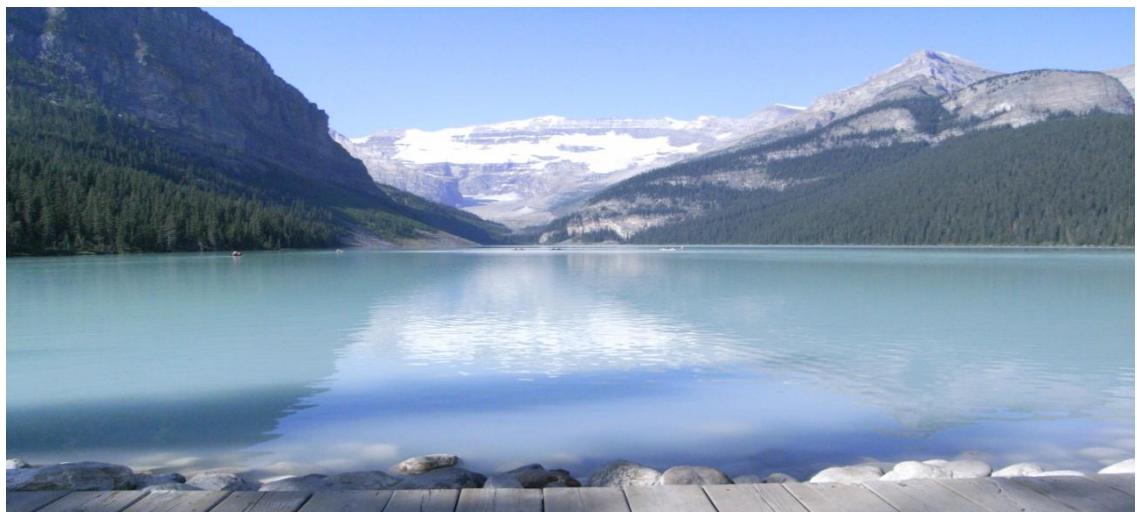
留学を始めて二週間が過ぎ、ホームステイが始まりました。私のホストファミリーはお母さんのダイアナさん、娘のカーリーでした。ホームステイ当日、寮とよならをして、ダイアナさんの車に緊張しながら乗りました。自己紹介をして、その後の会話が続かず困っている私に、ダイアナさんは色々な答えやすい質問をしてくれました。それに対しても緊張のあまり、きちんとした返答が出来ずにいました。しかし、何か伝えなければ!と思い直し、拙い英語で「私は英語を聞き取ることはまあまあ出来るけれど、話すことは苦手です。」と伝えました。するとダイアナさんは一瞬きょとんとした後、直ぐに笑顔になって「大丈夫よ、気にしないで。」と言ってくれました。その言葉にホッとしたことを覚えています。ダイアナさんの家は静かな住宅街の一角にありました。私が案内された部屋にはバルーンとテディベアが飾ってあり、「THE ☆外国の女の子の部屋」という感じでとてもわくわくしました。その日、ダイアナさんは夕食でおかずの他に、ご飯とお箸を用意してくれました。私はその気遣いがすごく嬉しかったです。

そしてその時カーリーと対面し、すごく大人っぽいな、と感じたのですが、カーリーは私の一つ年下でした。これには本当に驚きました。彼女はネイルサロンで働いていました。「ネイルは好き？」とカーリーに尋ねられた時、「すごく好き！」と返事をすると、カーリーはお店に招待してくれました。そしてカーリーオリジナルの素敵なかわいいネイルアートをしてくれました。私はそれが本当に嬉しくて嬉しくてありがとう以上の言葉が出ませんでした。その他にもダイアナさんは休日にショッピングモールへ連れて行ってくれたり、動物園へ連れて行ってくれたりしました。どれもこれもすごく楽しくて、思い出に残りました。しかしそれ以上にホストファミリーとのコミュニケーションは私にとってとても思い出に残るものでした。最初は緊張して全く話しかけられなかったのですが、少しずつ会話が出来るようになって、思いが伝わることの嬉しさを感じることが出来ました。言葉だけでなく、表情やジェスチャーなども会話をするにはとても重要な事なのだと言うことも分かりました。ホストファミリーには感謝してもしきれないくらい楽しい時間を過ごさせて貰いました。

その他にも様々なイベントがありました。ロッキーツアーでの綺麗な景色とおいしい料理は一生忘れないだろうし、きちんと正装をしてパーティーに参加したことだって初めての経験でときどきだったし、アウトドアアクティビティでは馬に乗って自然を満喫したし…たくさんのイベントで、たくさんの「初めて」を経験することが出来ました。一つ一つがとても充実していて、それに対して色々なことを考え、感じることが出来ました。

そしてカナダで一番感じたことは、日本に居るときよりも、毎日が忙しかったはずなのに、カナダでは時間がゆったりと進んでいるように思えた事です。日本に帰って来ると、時間に追われているのだな、ということを改めて実感しました。日本にはない時間の流れ方をすごく素敵だと感じたので、私はまたカナダへ行きたいです。国が違うと、こんなにも時間の流れ方が違うのだと言うことを知りました。「行ってみなきや分からないこと」を知れた事は私にとってとても良い収穫となりました。

最後に、留学を経て学んだことは数え切れないほどあります。ちょっとしたことから大きなことまで様々ですが、カナダでの経験は本当に貴重で、少し大変で、でもその倍以上に楽しいことばかりでした。最初に留学をするかどうか決めかねていた自分の背中をドンと押してやりたいくらいに素晴らしい経験がたくさん出来ました。この経験を絶対に無にしないよう、これから的生活に活かしていきたいと思います。



留学報告

間宮拓人

私は一度も海外に行ったことが無かったので、今回の海外夏期セミナー・カナダコースが初の海外生活となりました。それゆえ、緊張の連続で空港から飛行機に搭乗する時も緊張から何かと手間取ってしまい、終始あたふたしておりました。中継地点のアメリカのシアトル空港に到着したとき、なぜか私だけ入念な荷物チェックをされた時などは、アメリカ人の係員に英語で「これはなんだ？」と様々な荷物について質問されたり、他にもよく覚えていませんが尋ねられたのですが、緊張と疲れから頭が回らなくなっておりうまく答えることができず、日本人の係員に通訳してもらうという醜態をさらしてしまいました。解放されたあと山下先生から教えていただいたのですが、一通りの荷物チェックが終わった後も、麻薬などの違法薬物の取り締まりやテロ対策としてランダムに入国者を選出し荷物チェックを行うのだそうです。今回は運悪く私が当たってしまったようでした。それ以外にも、私の着ていた服に大麻の模様があつただけでいろいろと質問を受けたりもしたので、カナダに到着する前に自分の小心さや配慮の足りなさを痛いほど思い知りました。こんな調子でカナダで生活していくのか不安でいっぱいでした。

しかし、寮生活や英語クラスが始まり、本格的に夏期セミナーがスタートすると不安などと言っている暇はなくなりました。朝8時から12時までの英語クラスでは、担当のマットから日常会話に使われる英語を教えていただきました。彼は私たちにフランクに接してくれたり、ゲームをしながら英語を身につける授業方針だったので、みんなで楽しく英語を学ぶことができました。マットがどんなリアクションで場を沸かせてくれるのか、私はマットの英語の授業が毎日楽しみでなりませんでした。

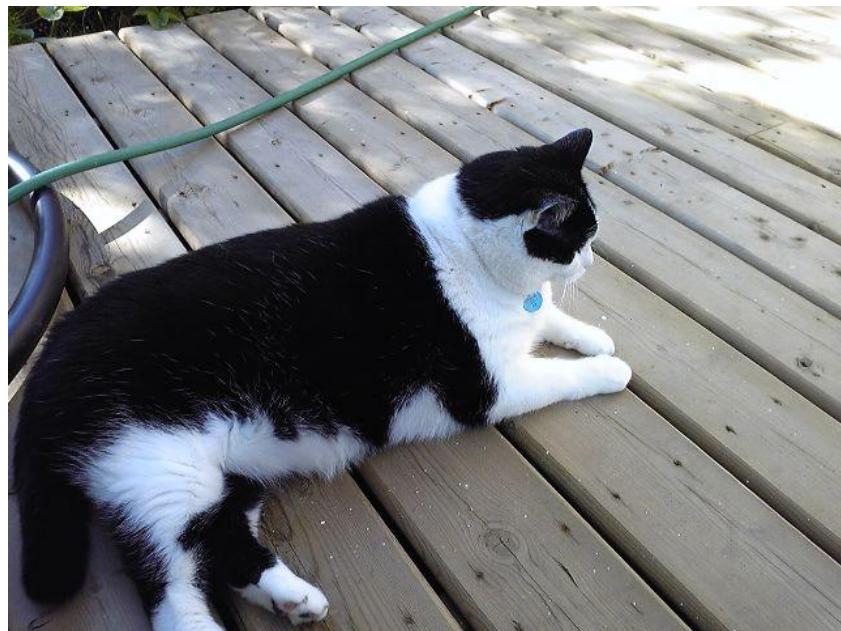
午後からは英会話を実践するカンバセーションクラブがありました。ここではさまざまなテーマについて担当教員ひとり、生徒数人のグループを作って話し合う授業でした。身近なことからカナダでの体験などについて英語で話し合いを行うこのカンバセーションクラブでも担当教員たちはフランクに接してくれたのですが、受け答えに時間がかかることが多い多々あり英語力のなさを痛感しました。落ち込んでいるときにも優しく接してくれたので次は頑張ろうという気持をたもって打ちこむことができました。

カナダでは最初の二週間は寮での共同生活でした。生活する上でまず気にしなければならなかったことと言えば水についてでした。カナダの水は硬水なのでミネラルウォーターをどこから買ってこなければならず、水道水を普通に飲んでいた新潟での生活とは違う不自由さを感じました。ミネラルウォーターは大抵ショッピングセンターーやコンビニでペットボトル数十本でまとめて売られており、一本だけでも買えるのですがまとめ買いしたほうが安く、限りあるお金を有効に使うためには、飲み水となるミネラルウォーターはまとめ買いして分け合ったほうが経済的でした。

食品についてですが、ひとりひとりが考えなしにケチャップやパンなどを購入してくると一つしかない冷蔵庫が瞬く間にいっぱいになってしまうので、食品を購入する際はみんなと相談してからショッピングセンターなどで買い物をしたほうが良いということを学びました。特に調味料が余ってしまったので寮での最終日に余った分をどうするか頭を抱えました。2週間の共同生活において私は今まで以上にコミュニケーション能力や社交性の重要さを実感しました。

特に思い出に残ったのはやはりホームステイでした。私のホームステイ先の家族はジェニファーという妙齢の女性と、下の写真のトビーという猫だけでした。にぎやかだった寮生活から一変、人が少なくてさびしく感じましたが、ジェニファーの優しさやトビーのかわいさで、すぐにそんな気持ちはなくなりました。ジェニファーは交友関係が広く、友達のフランス人や、以前ホームステイしていた中国人の女子大生など、ジェニファーの知り合いを招いての夕食を何度か開いていただいたり、新たなホームステイ仲間としてモンゴル人や、同じ日本人も同居することになったりと、異文化に触れる機会が多く、日本ではあまり接すことのない人たちとの英会話は良い経験ができました。最終日にはジェニファーが庭で育てたトマトをもらいました。甘酸っぱくておいしかったのを今でも覚えています。

カナダから帰国し、私は日本では絶対に得られなかつた良い体験をすることができたと実感しています。これからはこの体験を糧に自分自身を向上させていきたいです。



留学報告書

横木祐樹

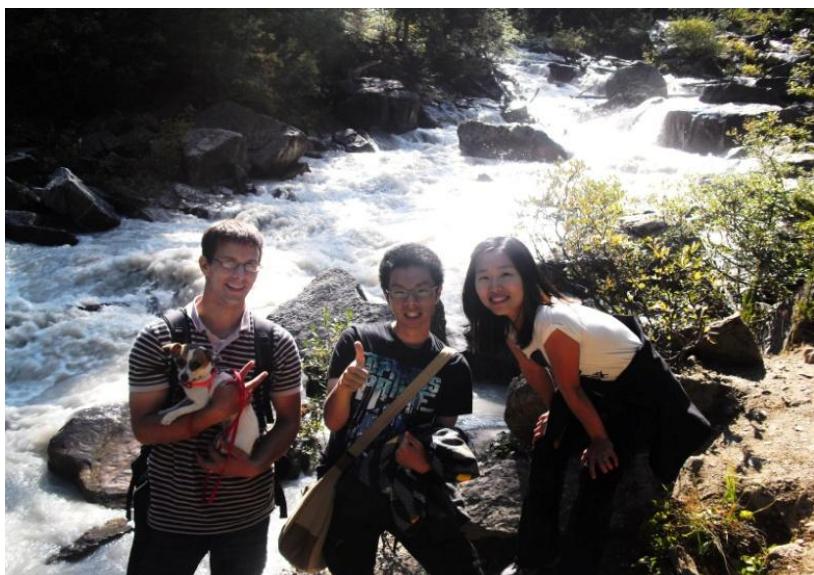
私がこの留学に参加しようと思った1番の理由というのは、留学を通して自分の中の様々な価値観と自分を変えたいという気持ちからでした。正直なところ、留学しに行く前日まで不安でいっぱいでした。英語はそんなにできないので英語は通じるのかどうか、留学のメンバーとは仲良くなれるのかどうか、そして自分を変えることができるかどうかなど、とてもネガティブに考えていました。しかし、そんなネガティブな考えも嘘のように留学したことによって変わったと私自身感じています。

まず、不安要素であった英語クラスは先生のマットの授業が面白いこともあるってとても楽しく受けることができました。しかし、授業の後半になるとだんだん授業の難易度が高くなっていき、みんなの前に出て英語である事柄について発表することやアルバータ大学内にいる人にマットが出した問題の答えを聞いてくるといったことを行い、正直なところものすごく苦労しましたが、その苦労を乗り越えたことによって得られるものがありました。発表の方は、私は極度の上がり症のため人前で話すと頭が真っ白になってしまふことがほとんどでした。しかし、このような授業を何回も繰り返すうちに人前でもしっかり発表することができるようになりました。また、問題の答えを聞いてくる授業では、最初の数回は他の仲間と一緒に答えを聞いていました。しかし、ある授業のときに自分1人で答えを聞きに行ったときがあります。最初は、恥ずかしい気持ちやら、断られたらどうしようと気持ちがあってなかなか声を掛ける事ができませんでしたが、勇気を出して聞いてみるとカナダの人はとても親切に質問に答えてくれました。それからは自信がついてどんどん現地の人と話すことに抵抗がなくなった気がします。この英語クラスの授業だけでも様々なことを学び、今までとは違う自分に変われた気がしました。

そして、この留学の中で最も様々な体験をすることができ、学ぶことができたのはホームステイでした。私がホームステイ先は2人の新婚さんのところでした。夫の方はキースさんといい、カナダの人でした。嫁さんはキュグランさんといい、韓国人でした。そこに、私ともう1人の留学生がホームステイしていました。その人はカナコさんといって、日本から来ており私より1つ年が上の人でした。カナコさんは私よりも早くからこの家にいるということもあって家内のことで英語の面でいろいろと教えてくれました。また、キースさんも高校生のときに日本に留学に来たことがあります、日常会話内でわからないときにはこっそり片言の日本語で教えてくれました。基本的にこの家のルールとして家内で日本語を話すということは禁止だったので、とても大変でした。このホームステイでは、様々なことを体験できました。1つ目は、ホームステイ先で出てくる料理です。だいたいはキュグランさんが作るということもあって、本当の韓国料理を食べることができました。しかし、本当の韓国料理ということもあって、辛さが半端ではなく初めて料理で泣かされました。自分だけかなと思っていたら食べなれていますのはキースさんもむせていたのには、とても可笑しかったです。この辛さのせいかどうかはわからないのですが日本に戻ってきて体重を量ったときに留学に行く前に比べて4キロも減っていたのには驚きました。2つ目は、毎週水曜日に連れて行ってもらったバイブルスタディというものです。これは、1つの家に

様々な国のキリスト教を信仰する人たちが集まって、ご飯を食べてからみんなでキリストに纏わる歌を歌ったり、聖書を使って勉強したりする会でした。こういった会は初めてだったので最初行ったときはものすごく緊張しました。しかし、日本人の方も大勢いたり、他の国の人も優しく接してくれたのでとても楽しかったです。また、様々な人と情報交換などができる、どのような国の人人がどのように考えているかなどを知ることができて、とてもよい体験になりました。また、日曜日には教会に行く機会も多かったです。やっていることは話を聞いて、歌を歌うというものでしたが英語が難しく、よく理解できませんでした。教会自体に入るというのが初めてで、雰囲気だけでも味わうことができたのでとても良い経験になりました。これらの出来事を通して、カナダは日本と違って信仰する宗教に対しての意識の違いを学びました。こういったことは、日本においては絶対に経験できないことだなと思うので留学して良かったと思いました。3つ目は、休日などにキースさんたちが様々なことを教えてくれたことです。それは、カナダの伝統的な遊びのこと、料理のこと、カナダ人と日本人の違いなどでした。1つ1つが私にとって初めて体験することや聞くことばかりだったので、とても良い経験になりました。また、カナダだけでなく、韓国のことについてもキュグランさんから学ぶことができました。このことから、日本との文化の違いを多く学ぶことができたと思います。

行きは不安でいっぱいだったものの、いざカナダに行ってみると環境の違いがどうかはわからないのですが何事にもチャレンジしようと気になったり、物事をポジティブに考えるようになりました。これには、私自身が驚きました。また、多くの文化の違いを学んだことで日本に戻ってきてからの様々な事柄に対する価値観が変わったと思います。これもカナダの人たちが親切な人ばかりで様々なことを学ばせてくれたおかげだと思います。そして、今回の留学メンバーもとてもいい人たちばかりで、英語クラスやITクラス、普段の日常といった場面ではたくさん助けてもらいました。そのため、仲間と協力することの重要性を学ぶことができました。とても感謝の気持ちでいっぱいです。また、こういった場を提供してくれた学校と両親にも、とても感謝しています。本当に、この留学に参加してよかったですと思っています。もし、カナダ留学に迷っている人がいるなら、自分の意外な一面を知ることができるかもしれない参加することをお勧めします。



留学報告まとめ

吉原和輝

カナダに行く前に大きく不安だったことがあります。それは英語の実力です。何故なら僕は英語の講義の再履修常連だったからです。今回のカナダ短期留学も英語の実力をつけるために行きたかったのですが、この留学はやっぱり英語ができる人たちばかりが行くと思っていました。ただ説明会で先生がとても丁寧に教えてくれると聞いたのでじゃあ行ってみようという感じで留学を決定しました。カナダに行く途中の飛行機で字幕付きの英語の映画を見てみたのですが英語はあまり聞きとれなかったので不安になりました。

カナダについて講師の人たちと挨拶を交わしその2日後から授業が始まりました。事前の説明会からわかってはいましたが授業は当然すべて英語で行われました。最初に英語で軽く会話したのですがうまく聞き取れず答えられませんでした。僕は明らかに苦手だったので真剣に聞きとりました。授業はさすが英語教育を売りにしているカナダだけあってとても刺激的でした。日本の授業ではひどいものでは黒板に書き写した英文をただ書き写すというものもあるのですが、カナダの英語クラスではそんなことがなく実践的で積極的に英語で会話することが求められました。いろいろな構文パターンを使い留学生同士で会話したり、英語を使って自分でプレゼンテーションを組み立てたりと楽しく授業が行われました。また、講師のマットは教室の外でやる授業も積極的に行ってくれました。外の授業では道で人に話しかける必要があり勇気が要りますが、日常で英語を使うスキルを上げるのに大変役立ったと思います。ただ、宿題が結構厄介なものが多く当然すべて英語で書かなければならぬので苦労しました。

カナダの生活ですが、食料の確保が大変でした。一応カナダに行く前に周辺の地図を調べて印刷しておいたのですが位置がつかみづらくてあまり役に立ちませんでした。カナダの国土はとても広いので建物と建物の距離感が広く移動が大変で、コンビニは近くで助かったのですがスーパーなど日用品が買える店を見つけるのが大変でした。物価は安いと聞いていたのですが、実際は日本で買うのと同じくらいだと思います。カナダの食事は全体的に味付けが濃いものが多かったです。ピザなどが特に顕著でした。また菓子も全体的にすごく甘いのでイマイチですがアイスはおいしいのでおススメです。

カナダに着いて気付いたのは、いろいろな国の人たちが住んでいる多人種な国だということです。僕たちが言った大学には近くに様々なエスニック料理店が開かれていて僕は積極的に利用しました。インドカレーや中華料理、ドイツのフランクフルトなどを食べることができました。街を歩くと様々な国の人を見る事ができます。頭にターバンを巻いた人やサリ一服を着た人などは日本ではありませんお目にかかるないのでしょうか？講師の人もフランス系のマットやスペイン語を話せるドミニクみたいに実に様々な経歴だったりします。驚いたのはビデオ屋で映画を作った国ごとにそれぞれDVDを分類してラベルで表示していました。日本ではこんなことをする必要がないのでごたごたに混ぜられていますが、多人種のカナダではやっぱり自分の国の映像作品が一番面白く感じるだろうから分ける必要があるのでしょう。ここでドミニクにカナ

ダの映画でお勧めのものがあるのかと聞いたのですが、映画を撮りたい人間がみんなアメリカに行ってしまうと聞いてなるほどと納得しました。自分はカナダに来る前は英語を最初から話せる国に住む人間は英語の授業を受ける必要がなくて得だと考えていました。しかし、話を聞くとアメリカ以外の英語圏の国の人々は、科学や文化の面で業績を上げたい人が全部アメリカに行ってしまうという問題に悩まされているようです。特にカナダはアメリカと地繋がりの国なのでそれが顕著に起こってしまうといえます。

最後にホームステイあたりのことを書いておきますが正直いい思い出かというと微妙です。最初はフィリピン系の人たちの家に一人でホームステイすることになりました。最初の日に中華料理屋に連れて行ってくれました。家族に15歳くらいの子がいてゲームで遊んだりしました。次の日みんなでホームステイの家の話をしたのですが佐藤君と長谷川君の二人がげっそりした顔をしていました。気になって聞いてみたらホームステイの家がかなりハズレくじだったらしく家に戻りたくないと言っていました。僕はこのとき他人事のようにかわいそうだなあと思っていました。この後の運命も知らずに。翌々日あたりから佐藤君がホームステイ先が犬を飼っているせいで犬アレルギーに苦しみだし、急きょ唯一犬を飼っていない僕のホームステイ先と交換することになりました。正直ショックでしたが事情が事情なのであきらめ佐藤君とチェンジし最初のホームステイ先に日本の土産を半分渡し別れを告げました。そして交代したホームステイ先の人は思っていたよりいい人でした。ただ犬や猫がすごかったです。家の中で飼っているので獣臭がきつくなってしまったのもよくわかりました。初日は獣臭を逃がすため窓を開けて寝ていたのですが寒くて辛いのでやめました。個人では猫の小便をした跡を踏むなどの不運にも見舞われました。他にも食糧の確保を怠っていたり、彼氏を連れ込んだり多少いい加減な人たちでしたが（ホームステイ先は姉妹で住んでいた）、英語を丁寧に話しかけてくれたり手料理を作ってくれたりといったこともあったので思っていたより良かったのかもしれません。

最後に留学体験の総括ですが、やはりいろいろ刺激を受けることが多く行ってよかったですけど感じました。実力不足でしたが気合で話せば結構会話が出来るものです。次はもっと英語の実力をつけてもっと長い会話ができるようになってから英語圏の国へ行きたいです。

